伊屋ヶ谷遺跡
小原山第1遺跡
小原山第2遺跡
金剛寺原第2遺跡
阿部ノ木遺跡

特別高圧線220KV一ツ瀬柏田線
新設工事に伴う発掘調査報告書

1995
宮崎市教育委員会

序

近年、宮崎市内においては、リゾート開発に伴う数多くの開発行為を始めとしまして、住宅供給のための造成工事、農業基盤整備による圃場整備事業等様々な開発事業が行われています。これらの開発に伴いまして、埋蔵文化財の発掘調査や石仏石塔等の調査保存など、数多くの文化財調査の必要性が叫ばれております。

本書は、九州電力株式会社宮崎支店による特別高圧線新設工事に伴いまして発掘調査を行いました5遺跡の調査報告書であります。今回の調査では角錐状石器などの旧石器時代の遺物、縄文時代早期・前期の土器・石器・集石遺構、古墳時代の住居址などが検出され、これまで不明な部分の多かった垂水台地の歴史の一部を明らかにすることができ、宮崎市の歴史に新たな1ページを加えることができました。

最後に、発掘調査の機会を与えて下さいました九州電力株式会社、未曾有の猛暑の中、発掘調査にあたられた皆様に深く感謝いたします。

平成7年3月

宮崎市教育委員会
教育長　稲　倉　宗　知

例　　言

1．本書は九州電力株式会社宮崎支店による特別高圧線220KV一ツ瀬柏田線新設工事にかかる、5遺跡の発掘調査記録の報告書である。

2．発掘調査は平成6年4月25日～平成6年7月27日までの期間で宮崎市教育委員会が実施した。

3．調査組織

調査主体	宮崎市教育委員会		
調査総括	文化振興課	主　事	中山　豪
調査員		主事補	鳥枝　誠
補助員		嘱　託	椎　由美子
			溝渕利子
			久富なをみ
調査事務		主　事	岩城勝志

4．本書の執筆は、鳥枝が行った。

5．掲載した図面の実測・製図・及び図版の作成は、中山・鳥枝・椎・溝渕・岩城が分担して行った。

6．写真撮影は、中山・鳥枝が行った。

7．本書の編集は、主として久富・中山が行った。

本 文 目 次

第Ⅰ章　はじめに …… 1
　第1節　発掘調査に至る経緯 …… 1
　第2節　遺跡の立地と歴史的環境 …… 1

第Ⅱ章　伊屋ヶ谷遺跡の調査 …… 3
　第1節　調査の概要 …… 3
　第2節　層序 …… 3
　第3節　縄文時代の遺構と遺物 …… 6
　　1．遺　構 …… 6
　　2．遺　物 …… 6
　　A　土　器 …… 6
　　B　石　器 …… 22
　第4節　古墳時代の遺構と遺物 …… 26
　　1．遺　構 …… 26
　　2．遺　物 …… 26

第Ⅲ章　小原山第1遺跡の調査 …… 28
　第1節　調査の概要 …… 28
　第2節　層序 …… 28
　第3節　遺構と遺物 …… 30
　　1．遺　構 …… 30
　　2．遺　物 …… 30
　　A　土　器 …… 30
　　B　石　器 …… 37

第Ⅳ章　小原山第2遺跡の調査 …… 39
　第1節　調査の概要 …… 39
　第2節　層序 …… 39
　第3節　遺構と遺物 …… 40

第Ⅴ章　金剛寺原第2遺跡の調査 …… 41
　第1節　調査の概要 …… 41
　第2節　層序 …… 43

第３節　遺構と遺物 …… 43
1．旧石器時代の遺物 …… 43
2．縄文時代の遺物 …… 44
A　土　器 …… 44
B　石　器 …… 44

第Ⅵ章　阿部ノ木遺跡の調査 …… 47
第１節　調査の概要 …… 47
第２節　層序 …… 47
第３節　遺構と遺物 …… 49
1．旧石器時代の遺物 …… 49
2．縄文時代の遺物 …… 49
A　土　器 …… 49
B　石　器 …… 49

第Ⅶ章　まとめ …… 53

挿　図　目　次

第１図　遺跡周辺地図 …… 2
第２図　伊屋ヶ谷遺跡標準土層図 …… 3
第３図　伊屋ヶ谷遺跡Ａ区出土状況図 …… 4
第４図　伊屋ヶ谷遺跡Ｂ区出土状況図 …… 5
第５図　Ａ区１号集石 …… 7
第６図　Ａ区２号集石 …… 7
第７図　Ａ区３号集石 …… 8
第８図　Ｂ区１号集石 …… 8
第９図　Ｂ区２号集石 …… 8
第10図　出土土器実測図１ …… 11
第11図　出土土器実測図２ …… 12
第12図　出土土器実測図３ …… 13
第13図　出土土器実測図４ …… 14
第14図　出土土器実測図５ …… 15
第15図　出土土器実測図６ …… 16

第16図　出土土器実測図７ …… 17
第17図　出土石器実測図１ …… 23
第18図　出土石器実測図２ …… 24
第19図　出土石器実測図３ …… 24
第20図　住居址実測図 …… 26
第21図　住居址出土土器実測図 …… 27
第22図　小原山第１遺跡標準土層図 …… 28
第23図　小原山第１遺跡出土状況図 …… 29
第24図　出土土器実測図１ …… 32
第25図　出土土器実測図２ …… 33
第26図　出土土器実測図３ …… 34
第27図　出土石器実測図 …… 38
第28図　小原山第２遺跡標準土層図 …… 39
第29図　出土土器実測図 …… 40
第30図　金剛寺原第２遺跡Ａ・Ｂ区出土状況図 …… 42
第31図　金剛寺原第２遺跡Ａ区出土状況図 …… 42
第32図　金剛寺原第２遺跡標準土層図 …… 43
第33図　出土石器実測図 …… 45
第34図　出土土器実測図 …… 46
第35図　阿部ノ木遺跡標準土層図 …… 47
第36図　阿部ノ木遺跡出土状況図 …… 48
第37図　出土石器実測図 …… 51
第38図　出土土器実測図 …… 52

表　目　次

第１表　伊屋ヶ谷遺跡出土土器観察表 …… 18
第２表　伊屋ヶ谷遺跡出土石器観察表 …… 25
第３表　小原山第１遺跡出土土器観察表 …… 35
第４表　小原山第１遺跡出土石器観察表 …… 37
第５表　金剛寺原第２遺跡出土石器観察表 …… 44
第６表　阿部ノ木遺跡出土石器観察表 …… 50

図 版 目 次

図版 1　伊屋ヶ谷遺跡A区全景 …… 57
図版 2　伊屋ヶ谷遺跡B区全景 …… 57
図版 3　伊屋ヶ谷遺跡A区1号集石 …… 57
図版 4　伊屋ヶ谷遺跡A区2号集石 …… 57
図版 5　伊屋ヶ谷遺跡A区3号集石 …… 58
図版 6　伊屋ヶ谷遺跡B区1号集石 …… 58
図版 7　伊屋ヶ谷遺跡B区2号集石 …… 58
図版 8　伊屋ヶ谷遺跡遺物出土状況 …… 58
図版 9　伊屋ヶ谷遺跡遺物出土状況 …… 59
図版10　伊屋ヶ谷遺跡遺物出土状況 …… 59
図版11　伊屋ヶ谷遺跡住居址 …… 59
図版12　伊屋ヶ谷遺跡住居址遺物出土状況 …… 59
図版13　小原山第1遺跡全景 …… 60
図版14　小原山第1遺跡集石遺構 …… 60
図版15　小原山第1遺跡土坑 …… 60
図版16　小原山第1遺跡土坑遺物出土状況 …… 60
図版17　小原山第1遺跡遺物出土状況 …… 61
図版18　小原山第1遺跡遺物出土状況 …… 61
図版19　小原山第1遺跡遺物出土状況 …… 61
図版20　小原山第2遺跡全景 …… 61
図版21　金剛寺原第2遺跡A区全景 …… 62
図版22　金剛寺原第2遺跡A区第3面 …… 62
図版23　金剛寺原第2遺跡遺物出土状況 …… 62
図版24　金剛寺原第2遺跡遺物出土状況 …… 62
図版25　阿部ノ木遺跡Aトレンチ …… 63
図版26　阿部ノ木遺跡Bトレンチ …… 63
図版27　阿部ノ木遺跡遺物出土状況 …… 63
図版28　阿部ノ木遺跡遺物出土状況 …… 63
図版29　伊屋ヶ谷遺跡出土遺物1 …… 64
図版30　伊屋ヶ谷遺跡出土遺物2 …… 65
図版31　伊屋ヶ谷遺跡出土遺物3 …… 66
図版32　小原山第1遺跡出土遺物1 …… 67
図版33　小原山第1遺跡出土遺物2 …… 68
図版34　小原山第1遺跡出土遺物3 …… 68
図版35　小原山第2遺跡出土遺物 …… 68
図版36　金剛寺原第2遺跡出土遺物 …… 69
図版37　阿部ノ木遺跡出土遺物 …… 69

第Ⅰ章　はじめに

第１節　発掘調査に至る経緯

九州電力株式会社宮崎支店より、特別高圧線220KV一ツ瀬柏田線新設工事に伴う鉄塔建設工事を垂水台地上を通過する形で行う旨の届出が、平成４年４月24日付けで提出された。それを受けて、文化振興課では金剛寺原第２遺跡に隣接する地区を当初から調査とし、他地区は表面調査及び試掘調査の結果、垂水台地上に建設される４基（伊屋ヶ谷遺跡、小原山第１遺跡、小原山第２遺跡、金剛寺原第２遺跡）についてはすべて発掘調査対象とし、発掘調査範囲は鉄塔の基礎を打ち込む範囲内とした。

発掘調査に取り掛った段階で九州電力株式会社宮崎支店より、鉄塔建設後の架線工事に必要なドラム場が近接地に必要な旨の申し出があったが、期間的に広範囲な調査は不可能であったため、最も地面に影響を与えない工法を選ぶことで、調査地区を２か所（伊屋ヶ谷遺跡Ｂ区、阿部ノ木遺跡）増加することとした。

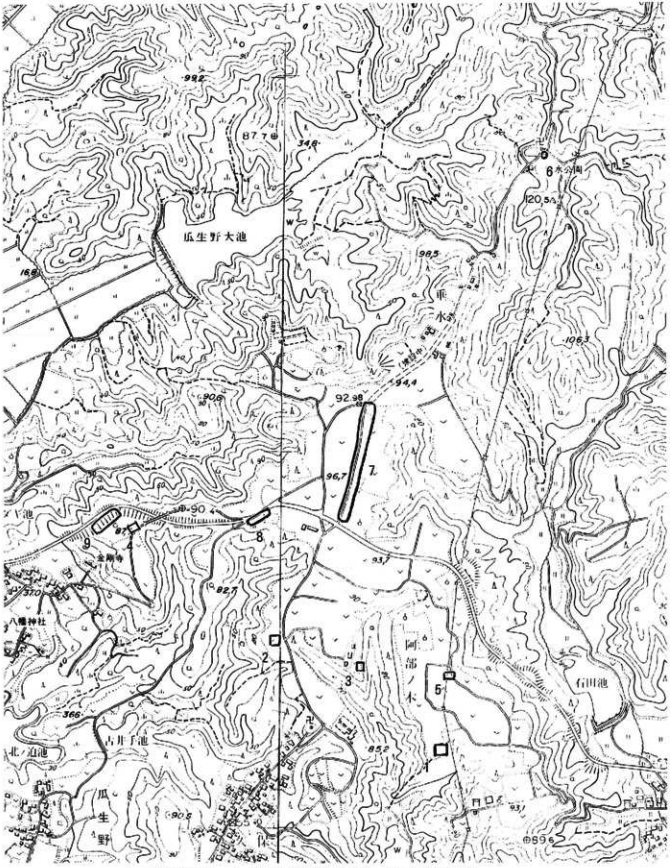
第２節　遺跡の立地と歴史的環境

垂水台地遺跡群は宮崎市の北西部、大淀川左岸の標高90ｍ前後の洪積台地（通称垂水台地）上に立地する。垂水台地は台地の北端、標高120.5ｍの山塊を基幹部とし、南へなだらかに傾斜し、台地中央部は標高90ｍ前後の比較的平坦な地形が広がる。これより南は大きく３つの舌状台地に分かれ、丘陵状になって南に延びる。

今回調査された５つの遺跡のうち、伊屋ヶ谷遺跡は台地の南東部、小原山第１、第２遺跡は台地の南端、金剛寺原第２遺跡は台地の西端、阿部ノ木遺跡は台地東部に位置する。

周辺には台地北端部の最高所付近にナイフ形石器が表面採集された垂水公園遺跡が所在し、台地中央部には平成５年に調査され、ナイフ形石器、スクレイパー、角錐状石器、剥片尖頭器など豊富な旧石器遺物が出土した垂水第１遺跡が所在する。また、その西側には昭和63年、平成元年に調査され、ナイフ形石器、スクレイパーなどが出土した金剛寺原第１、第２遺跡が所在する。

南に延び出した３つの丘陵のうち東方の丘陵には、かって宮崎城が所在し、その南方へ続く丘陵斜面には池内横穴群、上北方横穴群が広がり、丘陵最南端には下北方古墳群が立地し、沖積平野となる。中央の丘陵は、その付け根付近に国指定重要文化財木造薬師如来及び両脇侍像を安置する王楽寺が所在し、丘陵東斜面には瓜生野横穴群が立地し、丘陵が大淀川にあたる南端の位置に縄文時代早期の柏田貝塚がある。また大淀川を挟んだ対岸の丘陵上には同じく縄文時代早期の跡江貝塚、生目古墳群が所在する。西側の台地には一段下がった中間台地上に市指定有形文化財金剛寺文書が伝えられた金剛寺、国指定天然記念物瓜生野八幡神社のクスノキ群が所在する。



1　伊屋ケ谷遺跡　4　金剛寺原第２遺跡（２次）　7　垂水第１遺跡
2　小原山第１遺跡　5　阿部ノ木遺跡　8　金剛寺原第１遺跡
3　小原山第２遺跡　6　垂水公園遺跡　9　金剛寺原第２遺跡（１次）

第１図　遺跡周辺地図（１／10,000）

第Ⅱ章　伊屋ヶ谷遺跡の調査

第1節　調査の概要

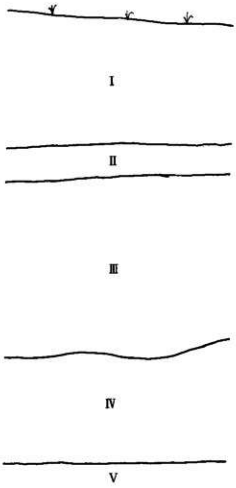
伊屋ヶ谷遺跡は宮崎市大字上北方字伊屋ヶ谷1678－1外に所在し、台地の南東部に位置する。遺跡は台地より南西に延びる小半島状の突端に立地し、東、南、西の3方向は谷に面している。北側には杉林があり、その北方は畑地が広がっている。

発掘調査に際しては南側の鉄塔建設用地をA区、杉林を挟んで北側の架線工事用地をB区とした。調査期間は平成6年4月25日～6月6日で、調査面積は482㎡である。

調査の結果、A、B両調査区とも一面に礫が見られ、A区では旧地形が北側から南側にかけて傾斜している状況が確認された。検出遺構及び出土遺物として、A区では縄文時代の集石遺構3基、早期の土器、石器類、B区では集石遺構2基、早期の土器、石器類、古墳時代の住居址1軒、土師器を検出した。

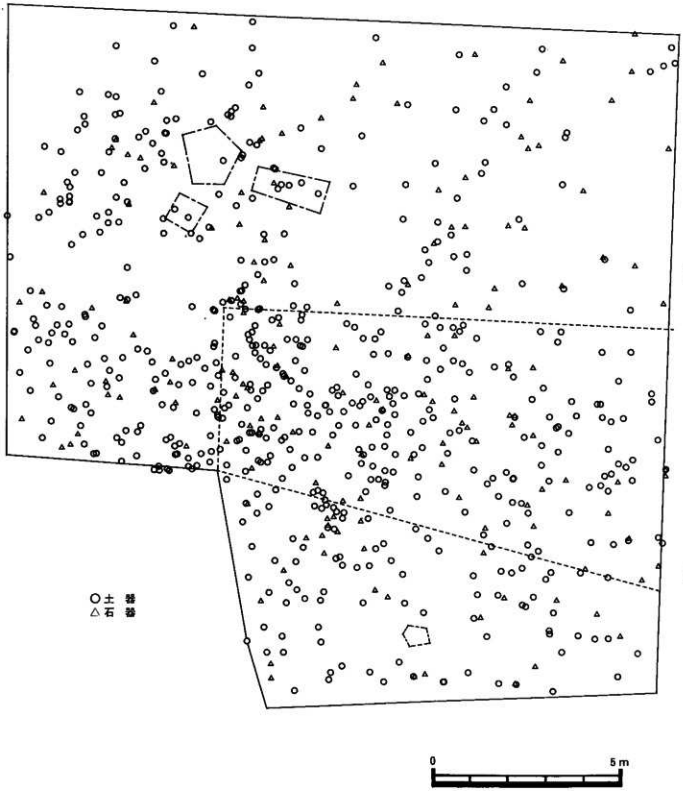
第2節　層　序

南側東－西セクションをもとに層位図を作成している。基本層序は以下に示す通りである。

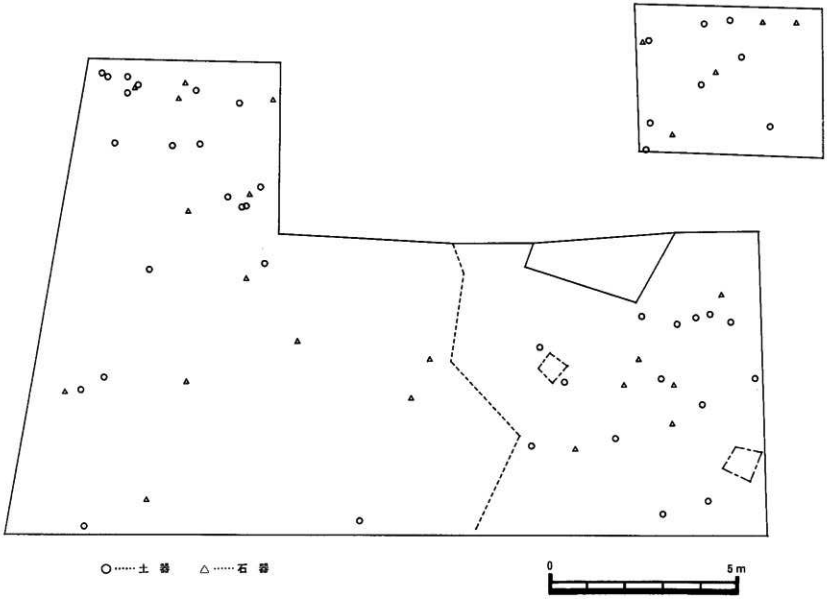


第Ⅰ層－褐色土層
耕作土。
第Ⅱ層－黄橙色土層
二次堆積アカホヤ。
第Ⅲ層－明褐色土層
縄文時代遺物包含層。
多量の礫を含み、やや粘り気がある。
第Ⅳ層－暗褐色土層
やや粘り気がある。
B区では見られない。
第Ⅴ層－礫層

第2図　伊屋ヶ谷遺跡標準土層図



第３図　伊屋ヶ谷遺跡Ａ区出土状況図



第4図　伊屋ヶ谷遺跡B区出土状況図

第３節　縄文時代の遺構と遺物

１．遺　　構

縄文時代の遺構として第Ⅲ層中より、集石遺構がＡ区より３基、Ｂ区より２基検山された。

（Ａ区１号集石）（第５図）

長軸133cm短軸100cmを測り、平面形は方形を呈する。集積状態は密で明確な掘り込みは認められない。

（Ａ区２号集石）（第６図）

長軸205cm短軸179cmを測る大型の集石で平面形は円形を呈する。集積状態は密で礫が厚く堆積する。明確な掘り込みは認められない。

（Ａ区３号集石）（第７図）

長軸219cm短軸163cmを測り、平面形は不整長方形を呈する。集積状態は密で礫が厚く堆積する。明確な掘り込みは認められない。複数の集石の可能性もある。

（Ｂ区１号集石）（第８図）

長軸122cm短軸110cmを測り、平面形は不整方形を呈する。集積状態は密で中央部は礫が抜けている。長軸68cm短軸50cm、深さ10cmの楕円形の掘り込みをもち、掘り込み内には炭化物が土壌化した黒色土が堆積する。複数の集石の可能性もある。

（Ｂ区２号集石）（第９図）

長軸78cm短軸76cmを測り、平面形は円形を呈する。集積状態はやや疎らで掘り込みはもたない。

２．遺　　物

土器及び石器が出土した。出土遺物のほとんどは縄文時代早期に属する。

Ａ．土　器（第10～16図）

縄文時代早期の土器は貝殻文、条痕文円筒土器を主体として、押型文土器、塞ノ神式土器、平栫式土器などが出土した。以下、文様により次のように分類される。

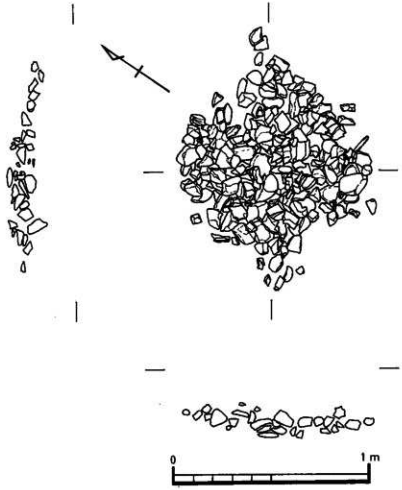
第Ⅰ類　口縁部に文様帯をもち、貝殻条痕文を主文様とする円筒土器。

Ⅰａ－口縁部にヘラ状施文具による縦位の沈線文を施すもの。（１～５）

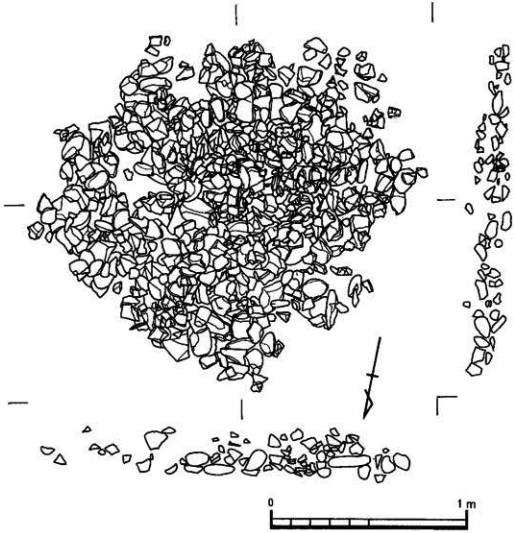
Ⅰｂ－口縁部に棒状施文具による縦位の沈線文をもち、沈線間の直下に刺突文を施すもの。（６）

Ⅰｃ－口縁部にヘラ状施文具による斜位の刺突文及びその直下に２列の横位の刺突文を施すもの。（７）

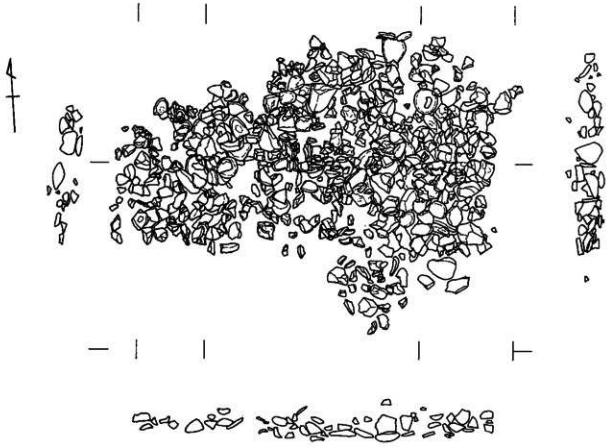
Ⅰｄ－口縁部に櫛状施文具による連続刺突文を施すもの。（８）



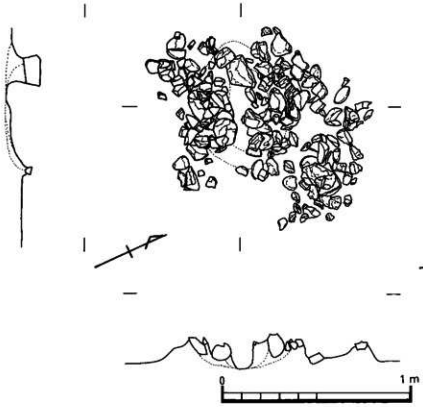
第5図　A区1号集石



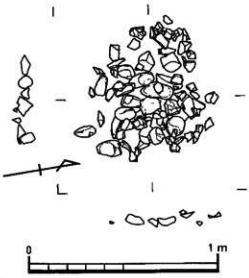
第6図　A区2号集石



第7図　A区3号集石



第8図　B区1号集石



第9図　B区2号集石

Ⅰe－口縁部に縦位、斜位の貝殻腹縁刺突文を施すもの。（9～20）

Ⅰf－口縁部に貝殻押引文を施すもの。（21、22）

第Ⅱ類　全面に貝殻条痕文を施す円筒土器。

Ⅱa－口縁部に縦位の貝殻条痕文を施し、胴部以下は斜位の貝殻条痕文を施すもの。(23、24)

Ⅱb－口縁部に波状の貝殻条痕文を施し、胴部以下は斜位の貝殻条痕文を施すもの。(25～27)

Ⅱc－全面に斜位もしくは横位の貝殻条痕文を施すもの。（28～31）

第Ⅲ類　貝殻腹縁刺突文を主文様とし、クサビ形貼り付け突帯を有する円筒（角筒）土器。

Ⅲa－口唇部に刻目をもち、口縁部に3条の貝殻腹縁刺突線文を横位に巡らし、胴部に縦位の貝殻腹縁刺突線文を施す円筒土器。（36～38）

Ⅲa'－Ⅲaの胴部。（42～48）

Ⅲb－口唇部に刻目をもち、口縁部に3条の貝殻腹縁刺突線文を横位に巡らし、胴部に縦位の貝殻腹縁刺突線文を施す角筒土器。（39～41）

Ⅲb'－Ⅲbの胴部。（49～52）

第Ⅳ類　貝殻腹縁刺突文を主文様とし、クサビ形貼り付け突帯をもたない円筒（角筒）土器。

Ⅳa－口唇部に刻目をもち、口縁部に2～3条の貝殻腹縁刺突線文を横位に巡らし、胴部に縦位の貝殻腹縁刺突線文を施す円筒土器。（53、54）

Ⅳb－口縁部に刻目をもち、口縁部に3条の貝殻腹縁刺突線文を横位に巡らし、胴部に縦位、斜位の貝殻腹縁刺突線文を施す角筒土器。（55、56）

第Ⅴ類　貝殻押引文を施す円筒土器。（57～64）

第Ⅵ類　口唇部に刻目をもち、口縁部に2条の貝殻腹縁刺突線文を横位に巡らし、胴部に貝殻押圧文を施す円筒土器。（65）

第Ⅶ類　口唇部に刻目をもち、口縁部に貝殻腹縁刺突線文、沈線文を横位にそれぞれ1条ずつ巡らし、胴部は貝殻条痕文を主文様とし、クサビ形突帯状に隆起させる円筒土器。(66)

第Ⅷ類　クサビ形貼り付け突帯を有するが、突帯間に施文のないもの。（67～69）

第Ⅸ類　山形押型文を施すもの。（88～97）

第Ⅹ類　貝殻条痕文を幾何学的に施文するもの。

Ｘａ－数条を一単位とする貝殻条痕文を横位、斜位に施すもの。（98～100）

Ｘｂ－貝殻条痕文を交互に斜位に施文するもの。（101）

Ｘｃ－貝殻条痕文を縦位に波状に施すもの。（102）

第Ⅺ類　縄文を施す土器

Ⅺａ－中央部を結束した縄文を縦位に施文するもの。（103～106）

Ⅺｂ－縄文を施すもの。（107～109）

第Ⅻ類　その他の土器

Ⅻａ－貼付突帯をもつもの。（110）

Ⅻｂ－押圧文をもつもの。（111）

Ⅻｃ－全面に刺突文をもつもの。（112）

第Ⅰ類の土器は口縁部に文様帯をもち、胴部以下を貝殻条痕文とする前平式のもので、１、４、７は口縁部内面をナデて、口唇部を尖らせ気味に成形している。11は口縁部が内湾する。第Ⅱ類の土器は貝殻条痕文円筒土器で、29は口縁部にかけて内湾し、27、30は口縁内面をナデて、口唇部をやや尖らせ気味に成形している。23は口唇部に刻目をもつ。32～35はⅠ、Ⅱ類の土器の胴部である。

第Ⅲ～Ⅷ類は吉田式系の土器である。土器の文様はバラエティーに富んでおり、角筒土器も存在する。39～41、55、56は角筒土器の口縁部で山形口縁になっている。第Ⅴ類は貝殻押引文を施す典型的な吉田式土器の胴部で、本遺跡においては第Ⅵ類の65の土器がその口縁部になると思われる。また、65は口縁部が外反する。第Ⅶ類の66は貝殻条痕文を押引き状に施文することにより、クサビ形突帯状に隆起させており、突帯上には刺突文を施す。第Ⅷ類の土器は断面が丸みをおびた粗雑なクサビ形突帯を貼り付け、突帯間に文様をもたない。Ⅶ、Ⅷ類ともに特異な土器である。

第Ⅸ類は山形押型文土器である。縦位に粗大な山形押型文を施文し、いずれも原体の幅が間延びしたものとなっている。

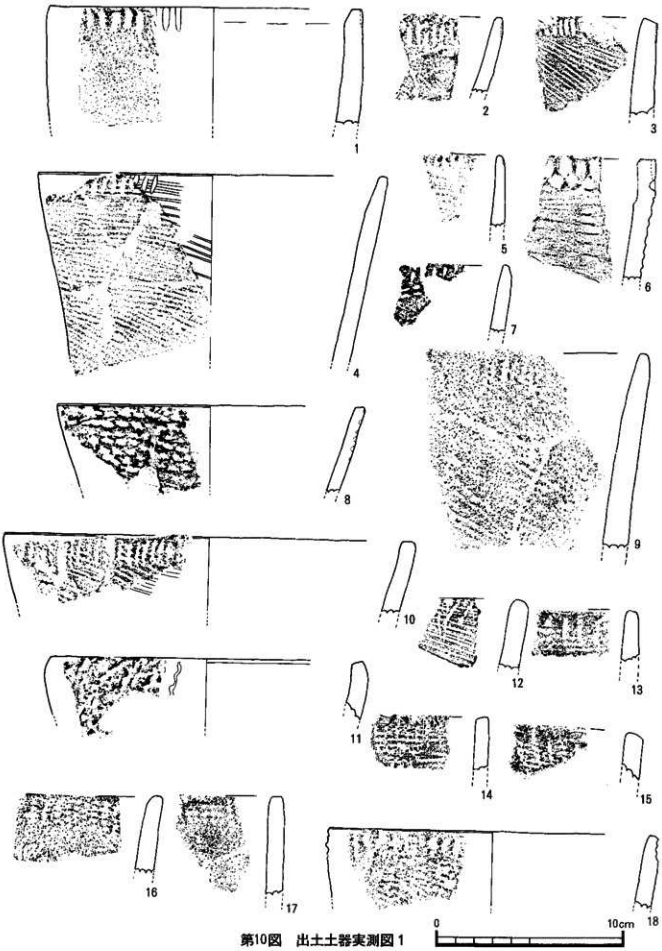
第Ｘ類のａ、ｂ は貝殻文系の塞ノ神式土器である。

第Ⅺ類のａは平栫式土器で中央を結束した縄文を縦位に施している。103、104は刻目突帯を貼り付け、103は頸部が「く」の字状となる。

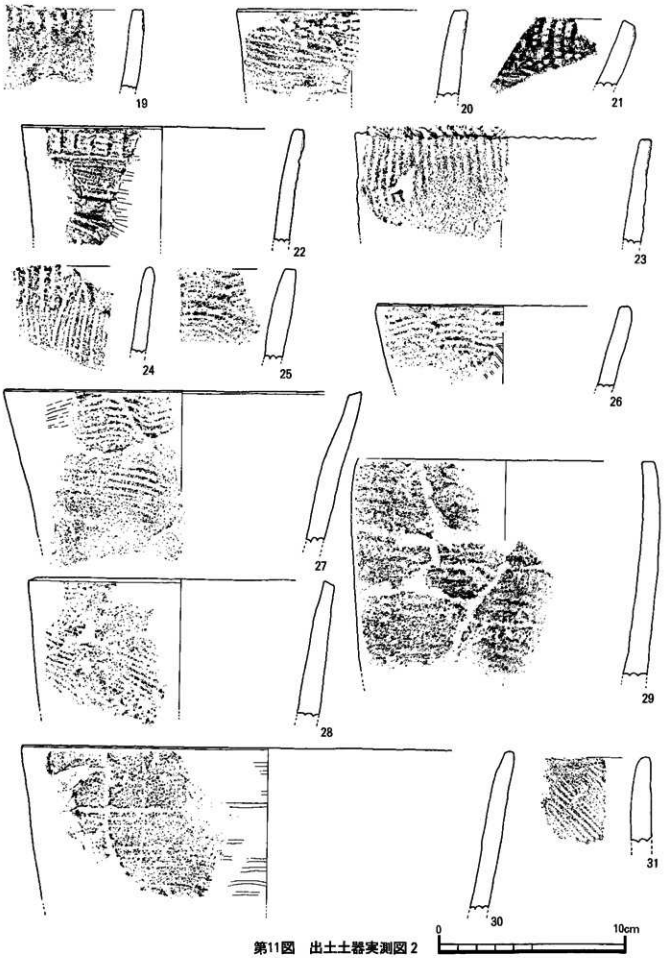
第Ⅻ類の110は刺突文を施した貼り付け突帯をもつもので、手向山式土器と思われる。

113～123は底部で113、114、117は底面に網代状の圧痕を施す。115、116は外面に貝殻条痕文を施している。底部の形態は胴部が直立もしくは、ほぼ直立するもの（113、115、116、121～123）やや外傾するもの（114、117、118）、外傾するもの（119、120）に分けられる。

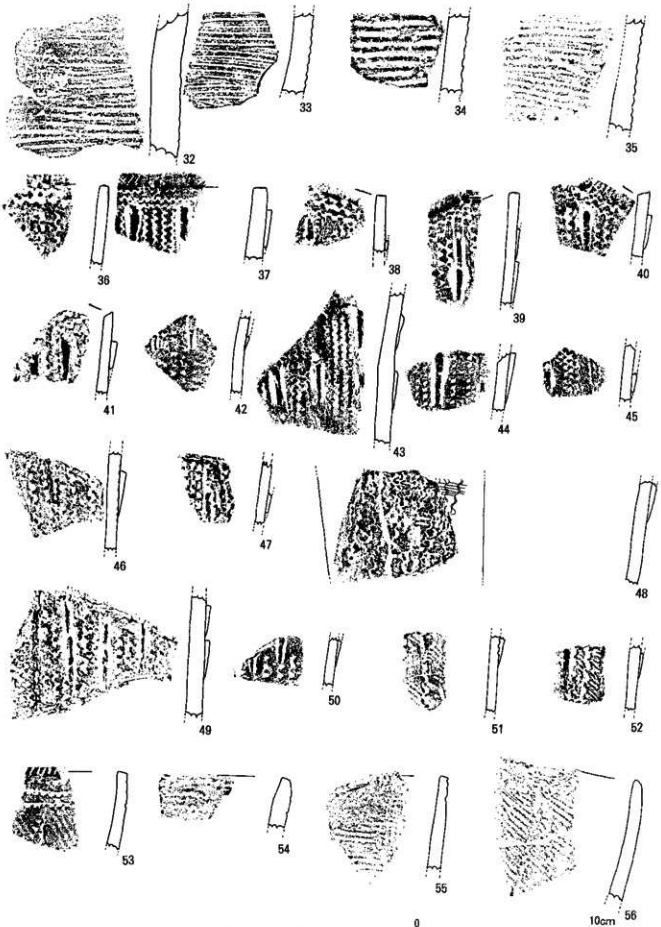
なお土器個別についての詳細は観察表を参照されたい。



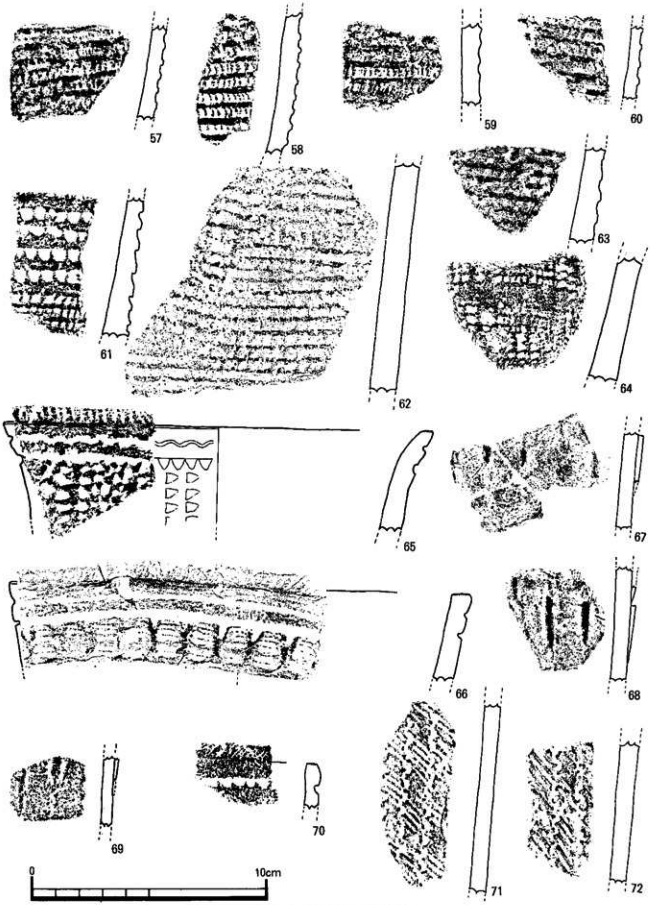
第10図　出土土器実測図１



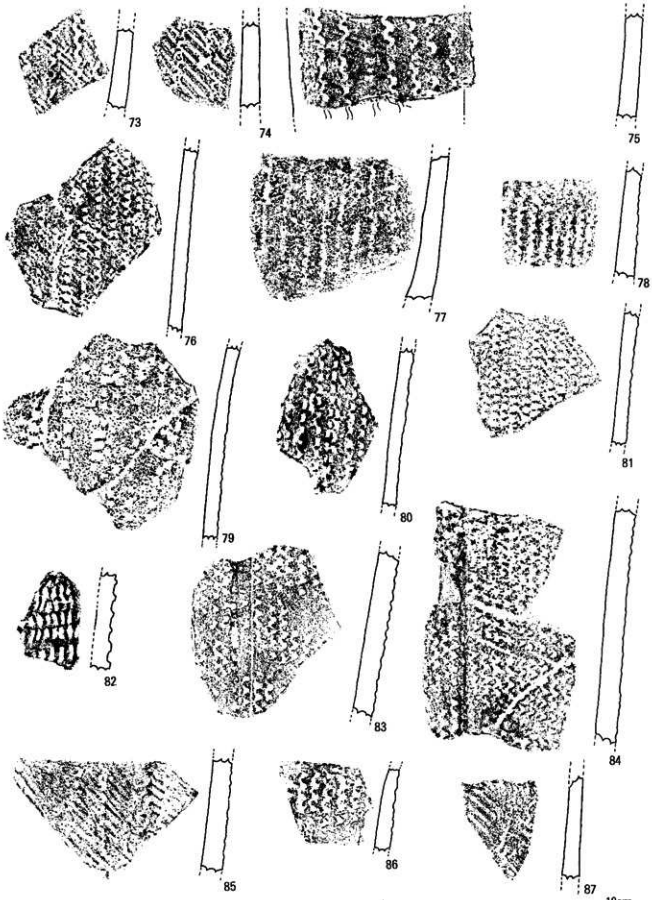
第11図　出土土器実測図 2



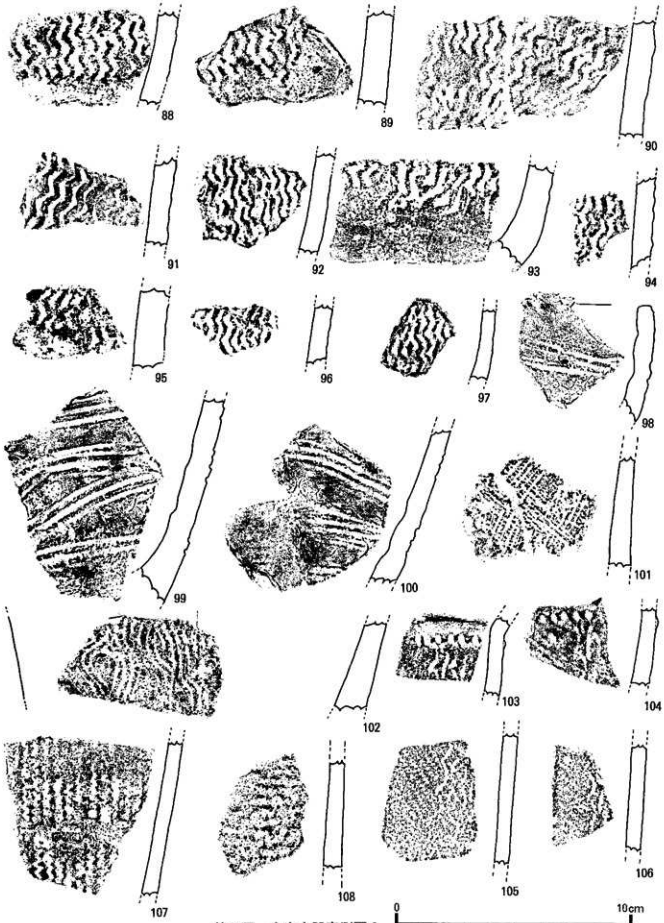
第12図　出土土器実測図３



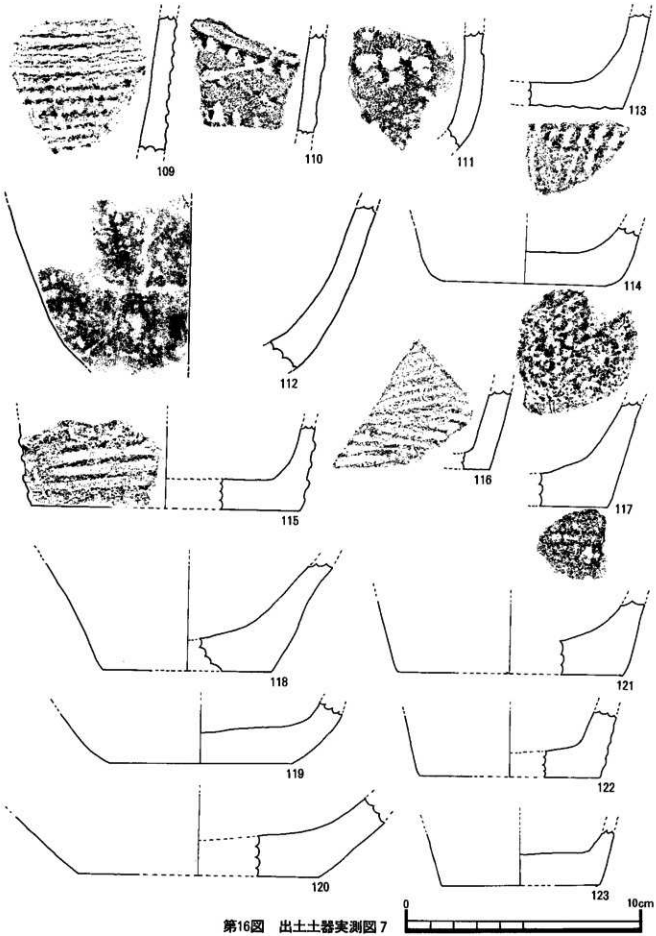
第13図　出土土器実測図 4



第14図　出土土器実測図５



第15図　出土土器実測図６



第16図　出土土器実測図７

表1　伊屋ヶ谷遺跡出土土器観察表

実測No.	器種	調整及び文様	胎土	色調	焼成	備考	取上No.
1	深鉢	内 ナデ 外 ヘラ描き沈線文、ナデ	0.5～2mmの砂粒を含み、1～1.5mmの石英粒を含む。	内 淡褐 外 暗褐	良		A 377
2	深鉢	内 ナデ 外 ヘラ描き沈線文、貝殻条痕文	1～1.5mmの砂粒を少量含み、0.5～1mmの石英粒を微量に含む。	内 茶褐 外 茶褐	良		A 651
3	深鉢	内 ナデ 外 ヘラ描き沈線文、貝殻条痕文	1mm大の砂粒を含み、0.5～1mmの石英粒を微量に含む。	内 淡褐 外 暗淡褐	良		A 433
4	深鉢	内 ナデ 外 ヘラ描き沈線文、貝殻条痕文	1～1.5mmの砂粒を少量含み、ごく細かい石英粒を微量に含む。	内 暗淡褐 外 淡褐	良		A 432
5	深鉢	内 丁寧なナデ 外 ヘラ描き沈線文、貝殻条痕文	0.5～1.5mmの砂粒を少量含み、0.5～1mmの石英粒を微量に含む。	内 黄褐 外 黄褐	良		A 435
6	深鉢	内 ナデ 外 沈線文、刺突文、貝殻条痕文	1～3mmの砂粒をやや多めに含み、1～1.5mmの石英粒を少量含む。	内 にぶい橙 外 黒褐	良		A 一括
7	深鉢	内 ミガキ 外 刺突文	0.5～1mmの砂粒、及び1mm大の石英粒を含む。	内 茶褐 外 茶褐	良好		A 672
8	深鉢	内 ナデ 外 刺突文、貝殻条痕文	0.5～1.5mmの砂粒、ごく細かな石英粒及び0.5～1mmの金雲母を含む。	内 茶褐 外 茶褐	良好		A 135
9	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文、貝殻条痕文	2～3mmの黒色砂粒を多く含み、1～2mmの砂粒及び石英粒を含む。	内 にぶい橙 外 暗黄褐	良		A 29
10	深鉢	内 丁寧なナデ 外 貝殻腹縁刺突文、貝殻条痕文	1～2mmの砂粒を少量含み、0.5～1mmの石英粒を微量に含む。	内 暗赤褐 外 にぶい橙	良		A 131 143
11	深鉢	内 丁寧なナデ 外 貝殻腹縁刺突文	0.5～1.5mmの砂粒を少量含み、0.5～1mmの石英粒を微量に含む。	内 にぶい橙 外 にぶい橙	良		A 163
12	深鉢	内 ミガキ 外 貝殻腹縁刺突文、貝殻条痕文	ごく細かな砂粒、1mm大の石英粒をごく微量に含む。	内 赤褐 外 赤褐	良好		A 597
13	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文、貝殻条痕文	0.5～1mmの砂粒を少量含み、0.5mm以下の石英粒を微量に含む。	内 暗灰褐 外 淡褐	良		A 619
14	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文、貝殻条痕文	0.5～1mmの砂粒及び石英粒を少量含む。	内 淡褐 外 黄褐	良	一部スス付着	A 608
15	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文、貝殻条痕文	0.5～1mmの砂粒及び石英粒を少量含む。	内 にぶい橙 外 黄褐	良		A 639
16	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文	1～2mmの砂粒を含み、0.5～1mmの石英粒を少量含む。	内 暗褐 外 黄褐	良		A 48
17	深鉢	内 丁寧なナデ 外 貝殻腹縁刺突文、貝殻条痕文	1.5～2mmの砂粒を含み、1mm大の石英粒を少量含む。	内 暗褐 外 暗褐	やや不良		A 660
18	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文、貝殻条痕文	1～1.5mmの砂粒を含み、1mm大の石英粒を少量含む。	内 黄褐 外 黄褐	良	19と同一個体か	B 一括
19	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文、貝殻条痕文	1～2.5mmの砂粒を含み、0.5～1mmの石英粒を少量含む。	内 黄褐 外 暗淡褐	良	18と同一個体か 一部黒褐	B 15
20	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文、貝殻条痕文	0.5～1.5mmの砂粒を含み、0.5～1mmの石英粒を少量含む。	内 淡褐 外 淡褐	良		A 44
21	深鉢	内 ナデ 外 貝殻押引文、貝殻条痕文	0.5～1mmの砂粒及び1mm未満の石英粒を少量含む。	内 にぶい橙 外 にぶい橙	良		A 556
22	深鉢	内 ミガキ 外 貝殻押引文、貝殻条痕文	1mm未満砂粒及び石英粒を微量に含む。	内 茶褐 外 赤褐	良好		A 596
23	深鉢	内 ナデ　口唇部；刻目 外 貝殻条痕文	1～1.5mmの石英粒をやや多めに含み、0.5～1mmの砂粒を含む。	内 黄褐 外 暗褐	良	一部スス付着	B 一括
24	深鉢	内 ナデ 外 貝殻条痕文	0.5～1.5mmの砂粒を含み、0.5mm以下の石英粒を少量含む。	内 灰褐 外 淡褐	良		A 548
25	深鉢	内 ナデ 外 貝殻条痕文	1～4mmの赤褐色砂粒を微量に含み、1mm大の石英粒を少量含む。	内 暗黄褐 外 暗黄褐	良		A 617
26	深鉢	内 ナデ 外 貝殻条痕文	1～1.5mm砂粒を少量含み、ごく細かな石英粒を微量に含む。	内 淡褐 外 淡褐	良		A 628
27	深鉢	内 ナデ 外 貝殻条痕文	0.5～1mmの砂粒を少量含み、0.5～1.5mmの石英粒を少量含む。	内 黄褐 外 にぶい橙	良		A 625
28	深鉢	内 丁寧なナデ 外 貝殻条痕文	1～3mmの砂粒を含み、0.5～1mmの石英粒を少量含む。	内 にぶい橙 外 黄褐	良		A 285
29	深鉢	内 ナデ 外 貝殻条痕文	0.5～1mmの砂粒及び0.5～1.5mmの石英粒を含む。	内 暗褐 外 淡褐	良		A 294
30	深鉢	内 ナデ 外 貝殻条痕文	0.5～1.5mmの砂粒を含み、1mm以下の石英粒を少量含む。	内 淡褐 外 黄褐	良		A 373
31	深鉢	内 ナデ 外 貝殻条痕文	ごく細かな石英粒、細砂粒を微量に含む。	内 黄褐 外 黄褐	良好		A 97

実測No.	器種	調整及び文様	胎土	色調	焼成	備考	取上No.
32	深鉢	内 ナデ 外 貝殻条痕文	1～1.5mの砂粒及び0.5～1mの石英粒を少量含む。	内 淡褐 外 黄褐	良		A 415
33	深鉢	内 丁寧なナデ 外 貝殻条痕文	0.5～1mの砂粒及び石英粒を微量に含む。	内 茶褐 外 赤褐	良好		A 635
34	深鉢	内 ナデ 外 貝殻条痕文	0.5～1mの砂粒及び0.5～1.5mの石英粒含む。	内 黄褐 外 黄褐	良		A 558
35	深鉢	内 ナデ 外 貝殻条痕文	0.5～1mの砂粒及びごく細かい石英粒を少量含む。	内 暗褐 外 暗褐	良		A 343
36	深鉢	内 ナデ 口唇部；刻目 外 貝殻腹縁刺突文	1～2mの砂粒を少量含み、0.5～1mの石英粒を微量に含む。	内 にぶい橙 外 にぶい橙	良	クサビ形突帯（欠損）	A 85
37	深鉢	内 ナデ 口唇部；刻目 外 貝殻腹縁刺突文	0.5～1mの砂粒を含み、ごく細かな石英粒を微量に含む。	内 黄褐 外 にぶい橙	良	クサビ形突帯	A 149
38	深鉢	内 ナデ 口縁部；刻目 外 貝殻腹縁刺突文	0.5mm以下の砂粒及び石英粒を微量に含む。	内 赤褐 外 にぶい橙	良	クサビ形突帯	A 575
39	深鉢	内 丁寧なナデ 口唇部；刻目 外 貝殻腹縁刺突文	0.5～1mの砂粒及び1mの石英粒を少量含む。	内 赤褐 外 赤褐	良	クサビ形突帯 角筒土器	A 316
40	深鉢	内 ミガキ 口唇部；刻目 外 貝殻腹縁刺突文	1～2.5mの石英粒を含み、0.5mm未満の細砂粒を少量含む。	内 赤褐 外 赤褐	良	クサビ形突帯 角筒土器	A 603
41	深鉢	内 ミガキ 口縁部；刻目 外 貝殻腹縁刺突文	0.5～1mの砂粒及び石英粒を少量含む。	内 赤褐 外 赤褐	良	クサビ形突帯 角筒土器	A 638
42	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文	1～1.5mの砂粒を含み、0.5～1mの石英粒を少量含む。	内 にぶい橙 外 暗褐	良	クサビ形突帯	A 1
43	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文	0.5～1.5mの砂粒を少量含み、1～2mの石英粒を含む。	内 赤褐 外 赤褐	良	クサビ形突帯	A 142
44	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文	0.5～1.5mの砂粒を含み、0.5mm以下の石英粒を含む。	内 黄褐 外 にぶい橙	良	クサビ形突帯	A 472
45	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文	0.5～2mの砂粒を含み、ごく細かな石英粒を少量含む。	内 茶褐 外 茶褐	良	クサビ形突帯	A 568
46	深鉢	内 丁寧なナデ 外 貝殻腹縁刺突文、貝殻条痕文	0.5mm以下の砂粒を含み、0.5～1mの石英粒を少量含む。	内 赤褐 外 赤褐	良	クサビ形突帯	A -括
47	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文	0.5mm未満の砂粒を少量含み、0.5～1mの石英粒を微量に含む。	内 黄褐 外 黒褐	良	クサビ形突帯	A 623
48	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文、貝殻条痕文	0.5～1mの砂粒を少量含み、0.5～1.5mの石英粒を微量に含む。	内 黄褐 外 黄褐	良	クサビ形突帯	A -括
49	深鉢	内 丁寧なナデ 外 貝殻腹縁刺突文	0.5mm以下の砂粒を少量含み、1～1.5mの石英粒をごく微量に含む。	内 赤褐 外 赤褐	良	クサビ形突帯 50と同一個体か 角筒土器	A 599
50	深鉢	内 丁寧なナデ 外 貝殻腹縁刺突文	0.5mm以下の砂粒を少量含み、1mの石英粒をごく微量に含む。	内 赤褐 外 赤褐	良	クサビ形突帯 49と同一個体か 角筒土器	A 599
51	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文、貝殻条痕文	ごく微細な砂粒を含み、1mm以下の石英粒を微量に含む。	内 赤褐 外 赤褐	良	クサビ形突帯 角筒土器	A -括
52	深鉢	内 調整不明 外 貝殻腹縁刺突文、貝殻条痕文	0.5～2mの砂粒を含み、微細な石英粒を微量に含む。	内 黄褐 外 赤褐	やや良	クサビ形突帯 角筒土器	A 638
53	深鉢	内 調整不明 口唇部；刻目 外 貝殻腹縁刺突文、貝殻条痕文	0.5mm大の砂粒を含み、0.5～1mmの石英粒を少量含む。	内 不明 外 にぶい橙	やや不良	内面剥離	A 322
54	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文、貝殻条痕文	0.5～1mの砂粒を少量含み、0.5mm大の石英粒をごく微量に含む。	内 暗褐 外 にぶい橙	良		A -括
55	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文、貝殻条痕文	0.5mm以下の砂粒を含み、1mm大の石英粒を微量に含む。	内 黄褐 外 暗褐	良	角筒土器	A 617
56	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文、貝殻条痕文	0.5～1mの砂粒を含み、0.5～1mの石英粒を微量に含む。	内 黄褐 外 にぶい橙	良	角筒土器	A 647
57	深鉢	内 ナデ 外 貝殻押引文	0.5～1.5mの砂粒を含み、0.5～1mの石英粒及び0.5mm以下の金雲母を微量に含む。	内 茶褐 外 暗褐	良		A 53
58	深鉢	内 丁寧なナデ 外 貝殻押引文	0.5～1mの砂粒を含み、0.5mm以下の石英粒及び金雲母を少量含む。	内 茶褐 外 暗褐	良		A 293
59	深鉢	内 ナデ 外 貝殻押引文	0.5mm未満の砂粒を含み、0.5mm以下の金雲母を少量含む。0.5～1mmの石英粒を微量に含む。	内 茶褐 外 暗褐	良		A 254
60	深鉢	内 調整不明 外 貝殻押引文	ごく細かな砂粒を含み、0.5～2.5mの石英粒及び0.5～1mの金雲母を少量含む。	内 不明 外 暗褐	やや不良		A 375
61	深鉢	内 ナデ 外 貝殻押引文、貝殻押圧文	0.5～2mの砂粒を含み、0.5～2.5mの金雲母及び1～1.5mの石英粒を含む。	内 茶褐 外 赤褐	良		A 363
62	深鉢	内 ナデ 外 貝殻押引文、貝殻条痕文	0.5～2mの砂粒を含み、0.5～2mの金雲母及び1～2mの石英粒を少量含む。	内 赤褐 外 赤褐	良		A 550 551

実測No.	器種	調整及び文様	胎土	色調	焼成	備考	取上No.
63	深鉢	内 ナデ 外 貝殻押引文	0.5～1.5mmの砂粒を含み、0.5～1mm の金雲母及び石英粒を少量含む。	内 赤褐 外 赤褐	良		A 298
64	深鉢	内 丁寧なナデ 外 貝殻押引文	0.5mm以下の砂粒を含み、0.5mm 大の石英粒を微量に含む。	内 暗褐 外 にぶい橙	良		A 640
65	深鉢	内 丁寧なナデ 口唇部；刻目 外 貝殻腹縁刺突文、貝殻押圧文	ごく細かい白砂粒を含み、1.5～2mmの 雲母砂粒、1～1.5mmの石英粒、0.5mm未 満の金雲母を少量含む。	内 茶褐 外 茶褐	良		A 685
66	深鉢	内 丁寧なナデ 口唇部；刻目 外 貝殻腹縁刺突文、沈線文、刺突文、貝殻条痕文	0.5～1mmの砂粒、0.5mm以下の金雲母を少 量含み、1～1.5mmの石英粒を微量に含む。	内 茶褐 外 茶褐	良	クサビ形突帯状の隆起	A 134 145
67	深鉢	内 ナデ 外 ナデ	0.5～1mmの砂粒を含み、0.5～ 1mmの石英粒を微量に含む。	内 にぶい橙 外 黄褐	良	クサビ形突帯	A 55
68	深鉢	内 ナデ 外 ナデ	0.5～1.5mmの砂粒を含み、1mm 大の石英粒を少量含む。	内 にぶい橙 外 茶褐	良	クサビ形突帯	A 158
69	深鉢	内 ナデ 外 ナデ	0.5～1mmの砂粒を含み、1mm 大の石英粒を少量含む。	内 赤褐 外 茶褐	良	クサビ形突帯	A 12
70	深鉢	内 丁寧なナデ 口唇部；刻目 外 貝殻腹縁刺突文	1mm大の砂粒を少量含み、0.5 ～1mmの石英粒を微量に含む。	内 淡褐 外 淡褐	良好		A 677
71	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文、貝殻条痕文	0.5mm以下の砂粒を含み、0.5～ 1mmの石英粒を微量に含む。	内 赤褐 外 赤褐	良	角筒土器	A 653
72	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文、貝殻条痕文	1～1.5mmの石英粒を少量含み、 0.5mm以下の砂粒を微量に含む。	内 茶褐 外 赤褐	良	角筒土器	A 361
73	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文、貝殻条痕文	0.5mm以下の砂粒を少量含み、0.5～ 1mmの石英粒を微量に含む。	内 赤褐 外 赤褐	良		A 一括
74	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文、貝殻条痕文	微細な砂粒を含み、0.5～1mm の石英粒を微量に含む。	内 赤褐 外 にぶい橙	良		A 585
75	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文、貝殻条痕文	微細な白色砂粒を含み、0.5～ 1mmの石英粒を少量に含む。	内 赤褐 外 茶褐	良		A 一括 287
76	深鉢	内 調整不明 外 貝殻腹縁刺突文、貝殻条痕文	0.5～1mmの砂粒を含み、1mm 未満の石英粒を微量に含む。	内 不明 外 にぶい黄～暗茶褐	やや不良		A 360
77	深鉢	内 調整不明 外 貝殻腹縁刺突文	0.5～3mmの砂粒を含み、1～1.5mm の石英粒を少量含む。	内 不明 外 黄褐	やや不良		A 473
78	深鉢	内 調整不明 外 貝殻腹縁刺突文	0.5～1.5mmの石英粒を少量含み、微 細な砂粒を微量に含む。	内 不明 外 にぶい橙	やや不良		A 5
79	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文	1～2.5mmの砂粒を含み、1～ 1.5mmの石英粒を微量に含む。	内 茶褐 外 茶褐	良		A 261 262
80	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文	0.5～2mm砂粒を含み、微細な金雲母を少 量及び1mm以下の石英粒を微量に含む。	内 茶褐 外 黄褐	良		B 41
81	深鉢	内 調整不明 外 貝殻腹縁刺突文	0.5mm以下の砂粒を含み、0.5～ 1mmの石英粒を微量に含む。	内 不明 外 にぶい橙	やや不良		A 39
82	深鉢	内 調整不明 外 貝殻押引文	0.5mm以下の砂粒及び石英粒を 微量に含む。	内 不明 外 暗褐	やや不良		A 662
83	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文、ヘラ描き沈線文	0.5mm未満の砂粒及び0.5～1mm の石英粒を少量含む。	内 赤褐 外 赤褐	良	角筒土器	A 494
84	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文	0.5mm以下の細砂粒を含み、0.5 ～1mmの石英粒を微量に含む。	内 赤褐 外 赤褐	良	角筒土器	A 587 663
85	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文、貝殻条痕文	0.5～5mmの砂粒を含み、1mm 以下の石英粒を少量含む。	内 にぶい橙 外 黒褐	良	角筒土器	A 622
86	深鉢	内 丁寧なナデ 外 貝殻腹縁刺突文	0.5～1.5mmの石英粒及びごく微 細な砂粒を微量に含む。	内 赤褐 外 赤褐	良好	角筒土器	A 588
87	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文、貝殻条痕文	0.5mm以下の砂粒を少量含み、0 .5mm以下の石英粒を微量に含む	内 淡褐 外 にぶい橙	良	角筒土器	A 585
88	深鉢	内 ナデ 外 山形押型文	0.5～2mmの砂粒を含む。	内 暗黄褐 外 茶褐	良		A 2
89	深鉢	内 ナデ 外 山形押型文	0.5～1.5mmの砂粒を含み、0.5～ 1mmの石英粒を少量含む。	内 暗黄褐 外 茶褐	良		A 15
90	深鉢	内 ナデ 外 山形押型文	1～3mmの砂粒を多量に含み、 0.5～1mmの金雲母を微量含む。	内 黄褐 外 茶褐	良		A 129 474
91	深鉢	内 丁寧なナデ 外 山形押型文	2～8mm砂粒を含み、1.5mmの石英粒を 微量、0.5mmの金雲母をごく微量含む。	内 褐 外 褐	良		A 452
92	深鉢	内 ナデ 外 山形押型文	1～2mm砂粒を含み、0.5～1mmの石英 粒を少量、0.5～1mmの金雲母を微量含む。	内 褐 外 赤褐	良		A 327
93	深鉢	内 ナデ 外 山形押型文 丁寧なナデ	1～2mm砂粒を含み、1mmの石英粒を微 量、0.5mmの金雲母をごく微量含む。	内 暗黄褐 外 茶褐	良		A 454

実測No.	器種	調整及び文様	胎土	色調	焼成	備考	取上No.
94	深鉢	内 ナデ 外 山形押型文	1～2mmの砂粒を含む。	内 暗黄褐 外 茶褐	良		A 一括
95	深鉢	内 ナデ 外 山形押型文	1～2.5mmの砂粒を少量含む。	内 黄褐 外 茶褐	良		A 636
96	深鉢	内 ナデ 外 山形押型文	1mm大の砂粒、石英粒を含む。	内 暗褐 外 茶褐	良		A 14
97	深鉢	内 ナデ 外 山形押型文	1mm大の砂粒、石英粒を含む。	内 黄褐 外 茶褐	良		A 16
98	深鉢	内 ナデ 外 貝殻条痕文	0.5～1mmの砂粒、石英粒を含む。	内 茶褐 外 茶褐	良	99、100と同一個体か	B 42
99	深鉢	内 ナデ 外 貝殻条痕文	1～1.5mmの砂粒及び石英粒を含む。	内 茶褐 外 茶褐	良	98、100と同一個体か	B 32
100	深鉢	内 ナデ 外 貝殻条痕文	0.5～1mmの砂粒及び石英粒を少量含む。	内 茶褐 外 茶褐	良	98、99と同一個体か	B 29 30
101	深鉢	内 丁寧なナデ 外 貝殻条痕文	0.5～1.5mmの石英粒を少量含む。	内 淡褐 外 暗褐	良		A 436
102	深鉢	内 ナデ 外 貝殻条痕文	1.5～3mmの砂粒及び1～1.5mmの石英粒を含む。	内 暗黄褐 外 淡茶褐	良		A 29
103	深鉢	内 ナデ 外 縄文（結束縄文）	0.5mm大の砂粒及び石英粒を少量含む。	内 淡黄褐 外 灰褐	良	刻目突帯	A 98
104	深鉢	内 ナデ 外 縄文（結束縄文）	0.5～1mmの砂粒及び石英粒を含む。	内 暗黄褐 外 灰褐	良	刻目突帯	A 6
105	深鉢	内 ナデ 外 縄文（結束縄文）	1～1.5mmの砂粒及び石英粒を含む。	内 黒褐 外 淡黄褐	良		A 8
106	深鉢	内 ナデ 外 縄文（結束縄文）	1～1.5mmの砂粒及び石英粒を含む。	内 黒褐 外 淡黄褐	良		A 252
107	深鉢	内 不明 外 縄文	1～2mmの砂粒及び石英粒を含む。	内 赤褐 外 暗褐	やや不良		A 67 104
108	深鉢	内 ナデ 外 縄文	1～2.5mmの砂粒及び石英粒をやや多量に含む。	内 褐 外 褐	やや不良		A
109	深鉢	内 丁寧なナデ 外 縄文	0.5～1mmの砂粒及び石英粒を含む。	内 黄褐 外 茶褐	良		A 441
110	深鉢	内 ナデ 外 ナデ	0.5～1mmの砂粒及び石英粒を少量含む。	内 茶褐 外 茶褐	良	刻目突帯	A 269 372
111	深鉢	内 ナデ 外 押圧文	0.5～1mmの砂粒及び石英粒を含む。	内 黒褐 外 淡茶褐	やや不良		A 602
112	深鉢	内 ナデ 外 刺突文	1～3mmの砂粒を少量、0.5mm大の石英粒を散豊含む。	内 黄褐 外 茶褐	やや不良		A 324 565
113	深鉢	内 ナデ 外 ナデ　底面；網代状の圧痕	0.5～1mmの砂粒を微豊含む。	内 黄褐 外 淡褐	良	底部	A 461
114	深鉢	内 ナデ 外 不明　底面；網代状の圧痕	1～1.5mmの砂粒及び石英粒を少量含む。	内 灰褐 外 黄褐	やや不良	底部	A 566
115	深鉢	内 ナデ 外 貝殻条痕文	0.5mm大の砂粒及び石英粒を含む。	内 赤褐 外 赤褐	良	底部	A 一括
116	深鉢	内 ナデ 外 貝殻条痕文	0.5～1mmの砂粒及び石英粒を少量含む。	内 暗黄褐 外 淡褐	良	底部	A 一括
117	深鉢	内 ナデ 外 不明　底面；網代状の圧痕	1～1.5mmの砂粒及び石英粒を微量含む。	内 黒褐 外 淡茶褐	やや不良	底部	A 99
118	深鉢	内 ナデ 外 ナデ	0.5mm大の砂粒及び石英粒を含む。	内 暗黄褐 外 淡茶褐	良	底部	A 334 673 674
119	深鉢	内 ナデ 外 ナデ	1mm大の砂粒を散豊含む。	内 淡黄褐 外 淡黄褐	良	底部	A 616
120	深鉢	内 ナデ 外 ナデ	0.5mm大の砂粒及び石英粒を含む。	内 淡黄褐 外 淡褐	良	底部	A 621
121	深鉢	内 ナデ 外 ナデ	0.5mm大の砂粒及び石英粒を含む。	内 暗黄褐 外 黄褐	良	底部	A 682
122	深鉢	内 ナデ 外 貝殻条痕文	0.5mm以下の砂粒及び石英粒を含む。	内 灰褐 外 淡黄褐	良	底部	A 663
123	深鉢	内 ナデ 外 ナデ	1～3mmの砂粒及び1mm大の石英粒を含む。	内 灰褐 外 淡黄褐	やや不良	底部	A 587

B．石　器（第17～19図）

石鏃（124～129）

6点出土している。1点が平基式である以外はすべて凹基式の石鏃である。

124は平基式の正三角形状を呈した石鏃である。チャート製。

125は正三角形状を呈し、基部を円弧状に浅く抉る。チャート製。

126は二等辺三角形状を呈し、基部をV字状に抉り、脚部を作り出している。チャート製。

127は二等辺三角形状を呈し、基部を浅くV字状に抉り、脚部を作り出している。姫島産黒曜石製。

128は二等辺三角形状を呈し、基部を深くV字状に抉り、脚部を作り出している。両側縁は鋸歯状に調整加工を施している。黒曜石製。なお全体の2分の1程度が欠損している。

129は二等辺三角形状を呈し、基部をU字状に抉り、脚部を作り出している。脚底部は平らに整形されている。頁岩製。

石斧（130～135）

6点出土している。いずれも破損品である。

130は打製石斧でほぼ全面に粗い加工を施している。刃部は両刃と思われる。流紋岩製。

131は打製石斧で側縁部に加工を施している。刃部は両刃である。流紋岩製。

132は小型の磨製石斧で全体の形状は方形を呈する。表面は横方向、裏面は斜方向に研磨痕がみられる。流紋岩製。

133は小型の磨製石斧で両面とも研磨痕がみられる。刃部は両刃となっている。流紋岩製。

134は細みの短冊形を呈し、刃部は片刃となっている。粘板岩製。

135は柱状を呈し、全面に粗い加工を施し、先端部を尖らせている。用途は不明であるがここでは一応石斧の類に加えておく。流紋岩製。

スクレイパー（136）

1点のみの出土である。左側縁に背面より細かい加工、裏面より大まかな加工を施し、刃部を形成している。また、裏面下部にも細かい加工が施してある。

敲石（137～140）

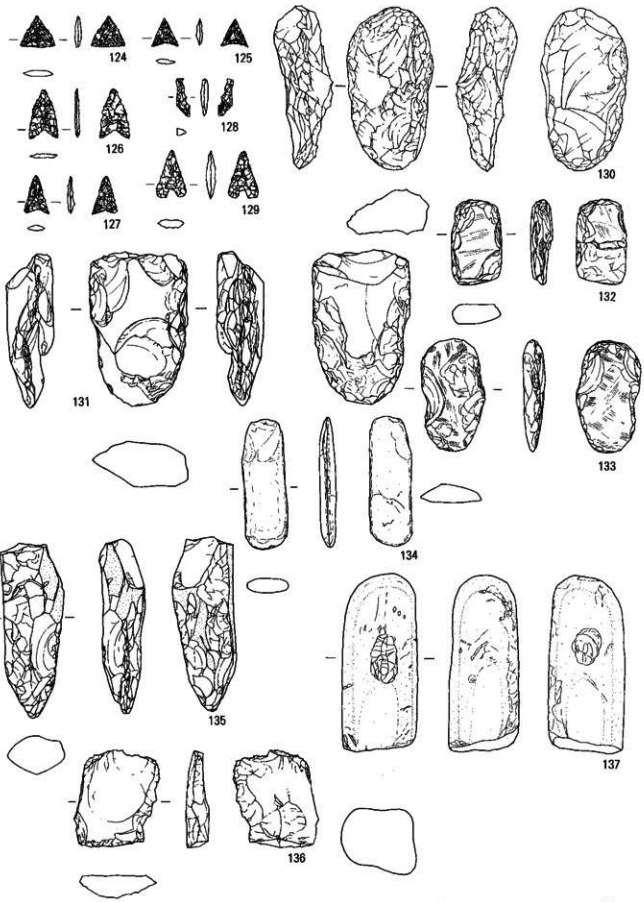
4点出土している。

137は棒状の敲石である。一端は欠損しており、残った一端に敲打痕がみられる。また、3面に人工的な浅いくぼみをもち、磨痕も認められる。砂岩製。

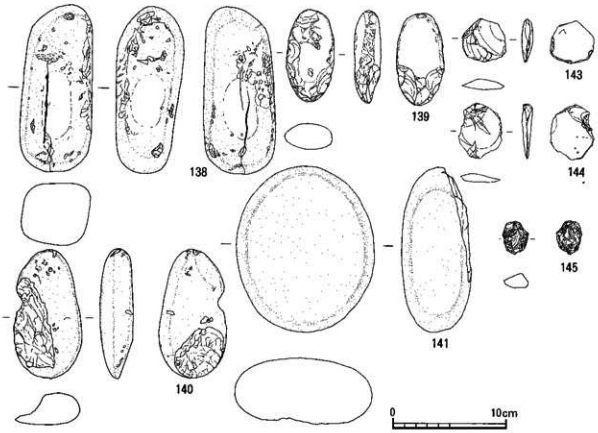
138は棒状の敲石で断面は四角形を呈する。上下両端に敲打痕をもつ。また、3面に磨痕が認められる。砂岩製。

139は上下両端、左右両側面、表面に敲打痕をもつ。粘板岩製。

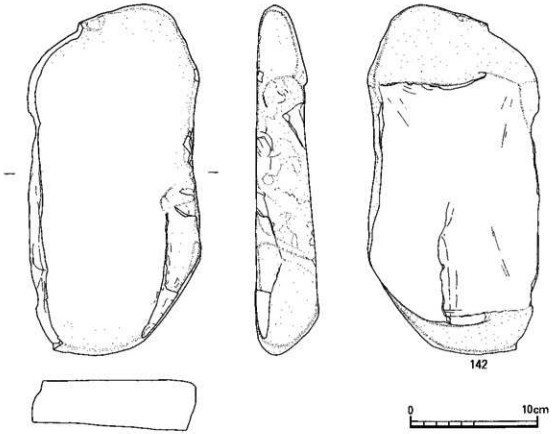
140は上端部に敲打痕をもつ。割れは使用によるものと思われる。尾鈴山酸性岩類製。



第17図　出土石器実測図１



第18図　出土石器実測図 2



第19図　出土石器実測図 3

磨石（141）

5点出土している。石材はいずれも尾鈴山酸性岩類である。141は楕円形の形状を呈し、表裏両面を使用している。

石皿（142）

4点出土している。いずれも砂岩製である。142は最も大型のもので、作業面は両面におよぶ。両面ともよく使用され、表面は平坦で滑らかな状態になっている。

剥片（143～145）

143、144は流紋岩製の使用痕のみられる剥片である。145は黒曜石製の剥片である。

第2表　伊屋ヶ谷遺跡出土石器観察表

No.	器　種	石　材	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	備　考	取上No.
124	石　鏃	チャート	18.0	19.5	3.70	1.04		A－506
125	石　鏃	チャート	14.0	14.5	3.00	0.51		A－543
126	石　鏃	チャート	23.0	16.0	2.50	0.88		B－ 65
127	石　鏃	黒曜石	19.0	13.5	3.20	0.57	姫島産黒曜石	A－708
128	石　鏃	黒曜石	19.5	7.0	3.65	0.48	½欠損	A－172
129	石　鏃	頁　岩	22.0	16.5	5.00	1.73		B－ 59
130	石　斧	流紋岩	93.0	49.5	25.55	150.00	打製石斧	A－233
131	石　斧	流紋岩	88.5	55.5	25.25	138.00	打製石斧	A－704
132	石　斧	流紋岩	48.5	28.5	11.30	22.42	磨製石斧	A－694
133	石　斧	流紋岩	64.5	36.0	10.55	29.04	磨製石斧	A－218
134	石　斧	粘板岩	74.5	24.0	8.50	24.10		A－214
135	石　斧？	流紋岩	99.5	34.0	23.30	92.33		A－709
136	スクレイパー	流紋岩	54.5	44.5	12.30	41.01		B－ 56
137	敲　石	砂　岩	101.0	43.0	37.65	249.00	磨石としても使用	A－711
138	敲　石	砂　岩	148.5	63.5	56.85	823.00	磨石としても使用	B－ 60
139	敲　石	粘板岩	82.0	42.5	22.35	111.10		B－ 5
140	敲　石	尾鈴山酸性岩類	115.0	60.5	28.35	214.00		A－209
141	磨　石	尾鈴山酸性岩類	156.0	122.0	59.00	1590.00		A－170
142	石　皿	砂　岩	278.5	136.0	50.00	2500.00		A－188
143	使用痕ある剥片	流紋岩	38.0	39.0	8.75	13.42		A－167
144	使用痕ある剥片	流紋岩	49.0	38.5	7.95	14.69		A－227
145	剥　片	黒曜石	29.0	22.5	13.60	8.75		A－221

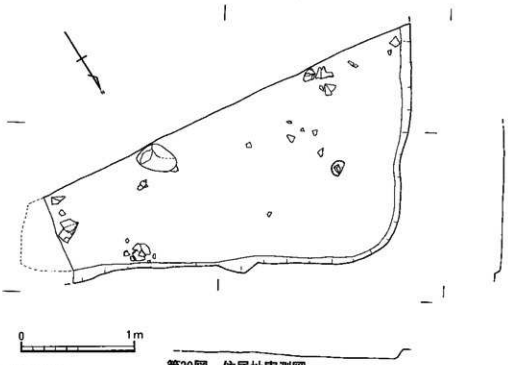
第4節　古墳時代の遺構と遺物

1．遺　構（第20図）

古墳時代の遺構として竪穴式住居が1軒検出された。調査は住居址全体の2分の1程度が調査区外にかかっており、完掘することができなかった。

竪穴式住居は東西約330㎝の隅丸方形プランで東側は時期不明の溝により切られている。住居址は削平を受けている為に9㎝の深さしか残存していなかった。

住居址内からは土師器の甕、椀、高坏などが出土した。椀は住居址の中心からやや北西寄りで底面に置かれた状態で出土し、中心よりやや東北寄りの底面から作業台に使ったと思われる大石が出土した。柱穴、炉址などは検出されなかった。



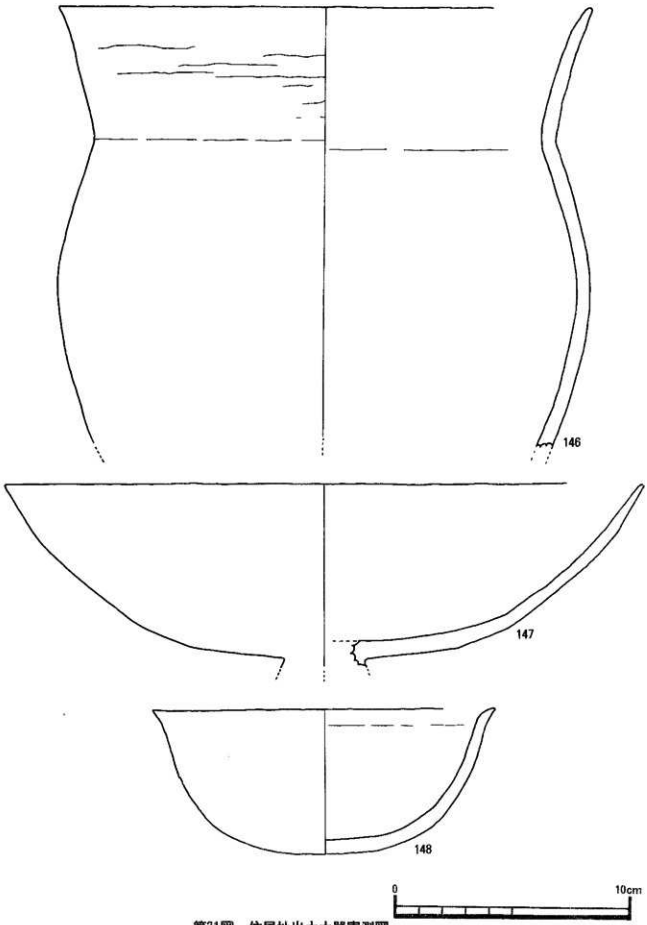
第20図　住居址実測図

2．遺　物（第21図）

146は甕で口縁部径22.8㎝、胴部最大径22.7㎝を測る。口縁部は外反し、端部は尖る。頸部は「く」の字状となり、胴部は胴中央部より上位で最も膨らみ、底部にむかってしだいにすぼまる。胴部の張りはそれほど大きくはない。調整は口縁部外面に粗い工具ナデ、胴部及び内面はヨコナデである。胎土に0.5～1.5㎜の砂粒、赤褐色の粒子を含み、焼成は良好で赤褐色を呈する。

147は高坏の坏部で坏底部近くに弱い稜をもち、口縁は大きく外反し、口縁端部は尖る。口径は27.3㎝で内外面ともにナデ調整を施す。胎土に0.5～1.0㎜の砂粒、赤褐色の粒子を含み、焼成は良好で黄褐色を呈する。

148は椀で口縁部径14.7㎝、器高6.2㎝を測る。底部は丸みをおびており、体部は内湾気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部は器壁が薄くなり尖る。調整は内外面ともナデである。胎土に0.5～2.0㎜の砂粒、赤褐色の粒子を含み、焼成は良好で明黄褐色を呈する。



第21図　住居址出土土器実測図

第Ⅲ章　小原山第１遺跡の調査

第１節　調査の概要

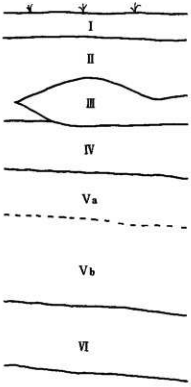
小原山第１遺跡は宮崎市大字瓜生野字小原山5319－１外に所在し、台地の南端部に位置している。西側は谷に面し、南側は傾斜して、久保・竹篠地区の集落をのせる竹篠台地へと続く。東側は道路を挟んで南西より細い谷が入り込み、北東から北側にかけては畑地が広がっている。

調査は、まず重機による表土剥ぎを行い、その過程において、アカホヤ層まで削平を受け撹乱していることが判明し、掘削はアカホヤ層直下の黒色土上面までとした。また、調査区の西側３分の２はすでに包含層が削平されている状態となっていたので、掘り下げは東側を中心に行った。調査の結果、旧地形は西側から東側に傾斜しており、更に調査区の東側においては北から南になだらかに傾斜していたことが確認された。

遺構、遺物としては集石遺構、土坑が検出され、縄文時代早期を中心とした土器、石器類が出土した。調査期間は平成６年６月６日から６月21日までで、調査面積は210㎡である。

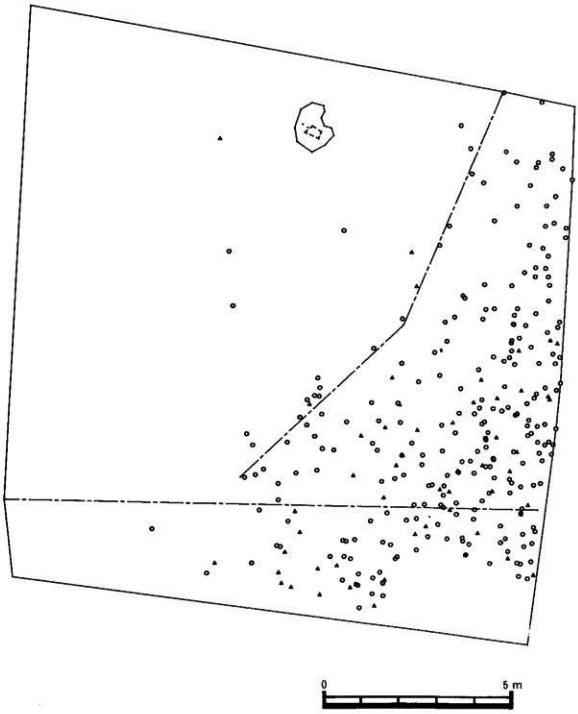
第２節　層　序

東側南－北セクションをもとに層位図を作成している。基本層序は以下に示す通りである。



第22図　小原山第１遺跡標準土層図

Ⅰ層－黒褐色土層
　耕作土。
Ⅱ層－橙褐色土層
　二次堆積アカホヤ。
Ⅲ層－橙褐色土層
　一次堆積アカホヤ。
Ⅳ層－黒色土層
　粘り気をもつ。
Va層－暗褐色土層（やや暗）
　遺物包含層。
Vb層－暗褐色土層（やや明）
　遺物包含層。
Ⅵ層－明褐色土層。
　ローム質である。



第23図　小原山第１遺跡出土状況図

第3節　遺構と遺物

1．遺　構

集石遺構1基と時期不明の土坑1基が検出された。

集石遺構は径63cmのほぼ円形のプランで、明確な掘り込みは認められない。礫の集積状態は疎らであり、礫の数は少ない。

土坑は不整円形の平面形を呈し、埋土内から轟式の土器が出土しており、築造時期は縄文時代前期以降と考えられる。

2．遺　物

縄文時代早期・前期の土器、石鏃、敲石、台石等の石器類が出土している。

A．土　器（第24～26図）

貝殻文円筒土器、貝殻条痕文円筒土器、押型文土器、轟式土器等が出土している。以下、文様により次のように分類される。

第Ⅰ類　口縁部に文様帯をもち、貝殻条痕文を主文様とする円筒土器。

Ⅰa－口縁部にヘラ状施文具による縦位の沈線文を施すもの。（1～5）

Ⅰb－口縁部に棒状の施文具で縦位の沈線文を施し、その直下に2列の連続刺突文を施すもの。（6）

Ⅰc－口縁部にヘラ状施文具による連続刺突文を施すもの。（7）

Ⅰd－口縁部に縦位、斜位の貝殻腹縁刺突文を施すもの。（8、9）

Ⅰe－口縁部に貝殻押引文を施すもの。（10、11）

第Ⅱ類　全面に貝殻条痕文を施す円筒土器。

Ⅱa－口縁部に波状の貝殻条痕文を施すもの。（12）

Ⅱb－全面に斜位もしくは横位の貝殻条痕文を施すもの。（13～15）

第Ⅲ類　貝殻腹縁刺突文を主文様とする円筒土器。

Ⅲa－口唇部に刻目をもち、口縁部に横位、胴部に縦位の貝殻腹縁刺突線文を施し、クサビ形貼り付け突帯を有するもの。（18、19）

Ⅲb－口唇部に刻目をもち、口縁部に横位、胴部に縦位の貝殻腹縁刺突線文を施し、クサビ形貼り付け突帯をもたないもの。（20）

第Ⅳ類　口唇部に刻目をもち、口縁部に横位の貝殻腹縁刺突線文、胴部以下は貝殻条痕文を施し、クサビ形貼り付け突帯を有するもの。（21）

第Ⅴ類　口唇部に刻目をもち、口縁部に横位の貝殻腹縁刺突線文を巡らし、その直下に羽状の刺突文を施すもの。(22)

第Ⅵ類　クサビ形貼り付け突帯を鋸歯状に施すもの。(23)

第Ⅶ類　山形押型文土器。(41)

第Ⅷ類　沈線文を施すもの。(42)

第Ⅸ類　轟式土器。(43、44)

第Ⅹ類　その他の土器。
　Ⅹa－穿孔を施すもの。(45)
　Ⅹb－無文のもの。(46)

Ⅰ類は前平式に属する土器群である。4、5の土器は縦位のヘラ描き沈線文の直下に横位のヘラ描き沈線文を巡らせ、文様帯を区画している。また5、8は口縁内面をナデて口唇部をやや尖らせ気味に成形している。

Ⅱ類は貝殻条痕文円筒土器である。12は口縁内面をナデて口唇部をやや尖らせ気味に成形している。16、17はⅠ、Ⅱ類の土器の胴部に想定され、斜位の貝殻条痕文を施し、器壁は厚い。

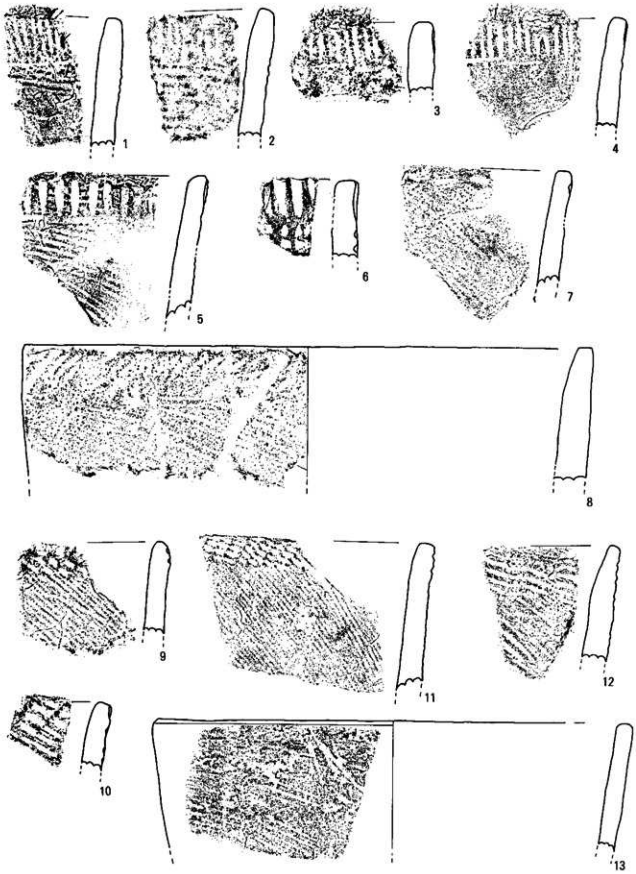
Ⅲ～Ⅵ類は吉田式系の土器である。全体的に器壁は薄い。18、19は断面三角形の高くしっかりしたクサビ形突帯をもち、地文に斜位の条痕を施している。18は口縁部がやや外反する。21はクサビ形突帯を2段に貼り付ける。22は横位の貝殻腹縁刺突文を施し、その直下に羽状の刺突文を施す。23はクサビ形突帯を垂直でなく、鋸歯状に貼り付ける特殊な土器である。24～36は胴部である。37～40は底部で器壁は薄く直立する。底部外面に縦位、斜位の刻線を施す。

Ⅶ類の41は押型文土器の小片で縦位に浅く、間延びした山形押型文を施文する。本遺跡出土の押型文土器はこれ1点のみである。

Ⅸ類は轟式土器で、43は断面三角形のミミズばれ状の隆起線を3条施している。内面は貝殻条痕により調整されている。轟B式に想定される。44は強い条痕を横位に施している。ともに土坑埋土内より出土した。

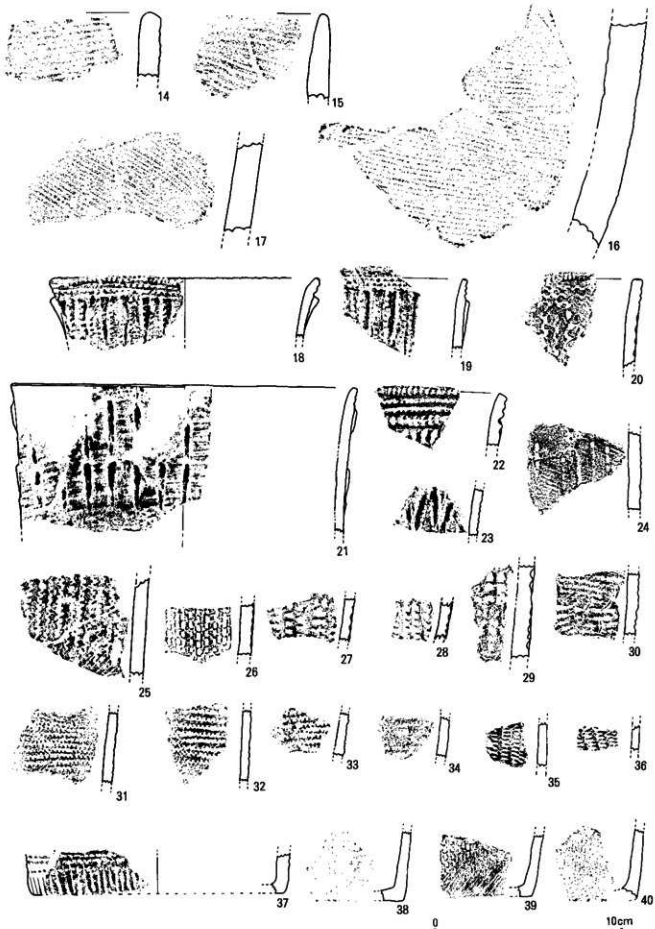
47～55は底部で、すべて平底である。47～51は底面に網代状の圧痕を施す。底部の形態は、外傾するもの（47～49、51、52、54、55）、やや外傾するもの（50、53）に分けられる。

なお土器個別についての詳細は観察表を参照されたい。



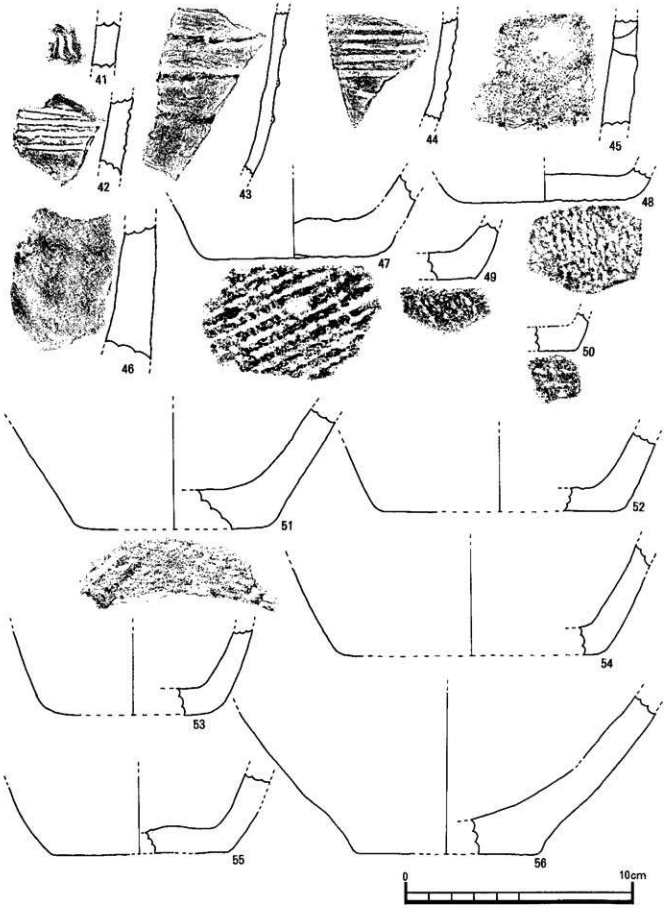
第24図　出土土器実測図１

0　10cm



第25図　出土土器実測図 2

0　10cm



第26図　出土土器実測図３

第３表　小原山第１遺跡出土土器観察表

実測No.	器種	調整及び文様	胎土	色調	焼成	備考	取上No.
1	深鉢	内 ナデ 外 ヘラ描き沈線文、貝殻条痕文	0.5mm以下の砂粒を含み、石英粒を微量に含む。	内 灰褐 外 黒褐	良		49
2	深鉢	内 ナデ 外 ヘラ描き沈線文、貝殻条痕文	0.5mm以下の砂粒及び石英粒を含む。	内 灰褐 外 暗褐	良		14
3	深鉢	内 ナデ 外 ヘラ描き沈線文	1mm以下の砂粒、石英粒を含む。 5mm大の砂粒をごく微量に含む。	内 淡黄褐 外 淡黄褐	良		19
4	深鉢	内 ナデ 外 ヘラ描き沈線文、ナデ	細砂粒及び石英粒を含む。	内 褐 外 黒褐	良		208
5	深鉢	内 ナデ 外 ヘラ描き沈線文、貝殻条痕文	1mm以下の砂粒及び細かい石英粒を含む。	内 黄褐 外 黒褐	良		145
6	深鉢	内 ナデ 外 沈線文、刺突文	1mm以下の砂粒、細かい石英粒を含む。	内 淡褐 外 黒	良		137
7	深鉢	内 丁寧なナデ 外 刺突文、貝殻条痕文	1mm以下の砂粒、石英粒を含む。	内 褐 外 黄褐	良		70
8	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文、貝殻条痕文	1mm以下の砂粒を含み、石英粒を少量含む。	内 淡褐 外 淡褐	良	一部スス付着	76 79
9	深鉢	内 ヘラナデ 外 貝殻腹縁刺突文、貝殻条痕文	1mm未満の石英粒及び0.5mm以下の砂粒を含む。	内 褐 外 暗褐	良		71
10	深鉢	内 ミガキ 外 貝殻押引文、貝殻条痕文	1mm未満の砂粒及び石英粒を含む。	内 黒褐 外 にぶい橙	良		55
11	深鉢	内 ナデ 外 貝殻押引文、貝殻条痕文	0.5mm以下の砂粒及び石英粒を含む。	内 暗黄褐 外 黒褐	良好		232
12	深鉢	内 ナデ 外 貝殻条痕文	0.5mm以下の砂粒を含み、微細な石英粒を少量含む。	内 灰褐 外 暗褐	良		84
13	深鉢	内 ナデ 外 貝殻条痕文	0.5mm以下の砂粒及び微細な石英粒を含む。	内 灰褐 外 淡褐	良		193
14	深鉢	内 ナデ 外 貝殻条痕文	1.5mm以下の砂粒及び1mm以下の石英粒を含む。	内 淡褐 外 暗褐	良		91
15	深鉢	内 ナデ 外 貝殻条痕文	1mm以下の砂粒及び石英粒を含む。	内 淡褐 外 淡褐	良		149
16	深鉢	内 ナデ 外 貝殻条痕文	0.5～2mmの砂粒を多量に含み、1mm以下の石英粒を少量含む。	内 黄褐 外 にぶい橙	良		248 262
17	深鉢	内 丁寧なナデ 外 貝殻条痕文	1～1.5mmの石英粒及び0.5mm以下の砂粒を少量含む。	内 黒褐 外 黄褐	良好		405
18	深鉢	内 丁寧なナデ　口唇部：刻目 外 貝殻腹縁刺突文、貝殻条痕文	細砂粒を含み、2mm未満の石英粒を少量含む。	内 褐 外 暗黄褐	良好	クサビ形突帯	143
19	深鉢	内 丁寧なナデ　口唇部：刻目 外 貝殻腹縁刺突文	2mm以下の砂粒及びごく細かい石英粒を微量に含む。	内 暗褐 外 黒褐	良好	クサビ形突帯	39
20	深鉢	内 ナデ　口唇部：刻目 外 貝殻腹縁刺突文	細砂粒を含み、1mm以下の石英粒を微量に含む。	内 黄褐 外 黄褐	良		88
21	深鉢	内 ナデ　口唇部：刻目 外 貝殻腹縁刺突文、貝殻条痕文	1～2mmの砂粒、1mm以下の金雲母を含む。	内 暗褐 外 暗褐	良好	クサビ形突帯	78
22	深鉢	内 ナデ　口唇部：刻目 外 貝殻腹縁刺突文、刺突文	ごく細かな砂粒を含む。	内 黄褐 外 黒褐	良好		254
23	深鉢	内 ナデ 外 刺突文	0.5～1mm未満の砂粒を含み、微細な石英粒を微量に含む。	内 褐 外 褐	良好	クサビ形突帯	3
24	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文、貝殻条痕文	0.5mm以下の砂粒を含む。	内 黄褐 外 黄褐	良		268
25	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文、ヘラ描き沈線	0.5～1.5mmの石英粒及び1mm未満の砂粒を少量含む。	内 にぶい橙 外 にぶい橙	良		109
26	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文	ごく細かい砂粒を含み、0.5mm以下の石英粒を少量含む。	内 暗赤褐 外 にぶい橙	良好		51
27	深鉢	内 不明 外 貝殻腹縁刺突文	0.5～1mmの砂粒を含む。	内 淡黄褐 外 黄褐	良		295
28	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文	0.5mm以下の砂粒を含み、1mm以下の石英粒を少量含む。	内 褐 外 黒	良		4
29	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文	0.5～2mm以下の砂粒を含み、1mm以下の石英粒を微量に含む。	内 黄褐一部赤褐 外 褐	良		249
30	深鉢	内 ナデ 外 貝殻押引文	2mm以下の長石、1mm以下の黒褐色、茶赤褐色砂粒を含み、1mm未満の石英粒を少量含む。	内 暗茶褐 外 暗褐	良		9
31	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文	0.5mm以下の砂粒を含み、1mm未満の石英粒、2～3mmの砂粒を微量に含む。	内 暗褐 外 暗褐	良好		41

実測No.	器種	調整及び文様	胎土	色調	焼成	備考	取上No.
32	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文	0.5mm以下の砂粒を含み、0.5mm大迄の石英粒、2～3mmの砂粒を微量に含む。	内 暗褐 外 褐	良好		48
33	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文	0.5～2mmの砂粒を含み、2mm未満の石英粒を微量に含む。	内 淡褐 外 淡褐	良		10
34	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文	0.5mm以下の砂粒を含み、2mm以下の石英粒もごく微量に含む。	内 暗褐 外 褐	良		42
35	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文	0.5～1.5mmの白色、白乳色の砂粒を微量に含む。	内 褐 外 暗褐	良		40
36	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文	0.5mm以下の黒色砂粒を少量含む。	内 褐 外 褐	良		201
37	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文、ヘラ描き沈線文	1mm以下の砂粒を含み、ごく細かな石英粒を微量に含む。	内 黒褐 外 黄褐	良	底部	89
38	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文、ヘラ描き沈線文	0.5～1.5mmの白色砂粒、0.5mm大迄の黒色砂粒を含み、石英粒を微量に含む。	内 暗褐 外 褐	良好	底部	96
39	深鉢	内 調整不明（ナデか？） 外 貝殻腹縁刺突文、ヘラ描き沈線文	1mm以下の砂粒、黒色、ごく細かな淡褐色の砂粒及び1mm以下の石英粒を少量含む。	内 赤褐 外 暗赤褐	良好	底部	24
40	深鉢	内 ナデ 外 貝殻腹縁刺突文、ヘラ描き沈線文	細かい砂粒を含み、0.5mm以下の石英粒を微量に含む。	内 暗赤褐 外 暗赤褐	良	底部	209
41	深鉢	内 ナデ 外 山形押型文	0.5～1mmの砂粒を含み、1mm以下の石英粒を少量含む。	内 茶褐 外 にぶい橙	良		4
42	深鉢	内 丁寧なナデ 外 沈線文	1mm以下の砂粒及び石英粒を含む。	内 暗黄褐 外 暗黄褐	良好		1
43	深鉢	内 貝殻条痕 外 隆起線文	ごく細かな砂粒を含み、微細な石英粒を微量に含む。	内 黄褐 外 黒褐	良好		P－1 －1
44	深鉢	内 ナデ 外 貝殻条痕文	1mm以下の褐、白色、0.5mm以下の黒色砂粒及びごく微細な石英粒を含む。	内 暗黄褐 外 淡褐	良好		P－1 －1
45	深鉢	内 ナデ 外 丁寧なナデ	ごく細い黒、白色砂粒、2mm以下の赤褐、灰色砂粒及び石英粒を含む。	内 灰褐 外 淡褐	良		217
46	深鉢	内 ナデ 外 調整不明	0.5～3mmの砂粒及び1mm以下の石英粒を含む。	内 暗茶褐 外 淡褐	やや不良	穿孔あり	243
47	深鉢	内 ナデ 外 ナデ 底面；網代状の圧痕	1mm以下の砂粒及び石英粒を含む。	内 淡灰褐 外 淡褐	良	底部	196
48	深鉢	内 ナデ 外 ナデ 底面；網代状の圧痕	ごく細かな砂粒及び石英粒を含む。	内 淡黄褐 外 淡黄褐	良	底部	203
49	深鉢	内 調整不明 外 ナデ 底面；網代状の圧痕	2mm以下の砂粒及び1mm未満の石英粒を含む。	内 淡褐 外 淡褐	良	底部	229
50	深鉢	内 ナデ 外 ナデ 底面；網代状の圧痕	0.5～1mmの砂粒を含み、1mm大の石英粒を少量含む。	内 淡褐 外 淡黄褐	良	底部	28
51	深鉢	内 調整不明 外 ナデ 底面；組織痕？	1～1.5mmの砂粒を含み、0.5～1mmの石英粒を少量含む。	内 明褐 外 にぶい橙	良	底部	192
52	深鉢	内 ナデ 外 ナデ	1mm以下の細かい砂粒及び石英粒を含む。	内 黒褐 外 淡褐	良	底部	198
53	深鉢	内 ナデ 外 ナデ	0.5～1mmの砂粒を含み、1mm以下の石英粒を少量含む。	内 暗黄褐 外 褐	良	底部	224
54	深鉢	内 ナデ 外 ナデ	ごく細かい砂粒及び1mm以下の石英粒を含む。	内 灰褐 外 淡褐	良	底部	62
55	深鉢	内 ナデ 外 貝殻条痕文	3mm以下の砂粒及び微細な石英粒を含む。	内 暗黄褐 外 褐	良	底部	93
56	深鉢	内 ナデ 外 丁寧なナデ	1mm以下の砂粒及び微細な石英粒を含む。	内 淡黄褐 外 淡褐	良	底部	220

B．石　器（第27図）

石　鏃

未製品と思われるものも含めて５点出土している。57～59は凹基式の石鏃である。

57は厚みのある石鏃で片方の脚部が欠損している。二等辺三角形状を呈し、基部を深くＶ字状に抉り、脚部を作り出す形態になると思われる。チャート製。

58は二等辺三角形状を呈し、基部を円弧状に浅く抉る。黒曜石製。

59は正三角形状を呈し、基部を浅くＶ字状に抉り、脚部を作り出している。黒曜石製。

60は先端部と基部を破損しており、形態は不明である。黒曜石製。

61は加工痕のある黒曜石の剥片で石鏃の未製品と思われる。

敲　石

２点出土している。62は卵形の敲石で上下両端部に敲打痕がみられる。また、両側面には磨痕が認められる。石材は尾鈴山酸性岩類である。もう１点の敲石は砂岩製である。

台　石

63は砂岩製の台石で表面には敲打痕があり、裏面は平坦になっている。表面は敲石の台として、裏面は磨石の台としての使用が考えられる。

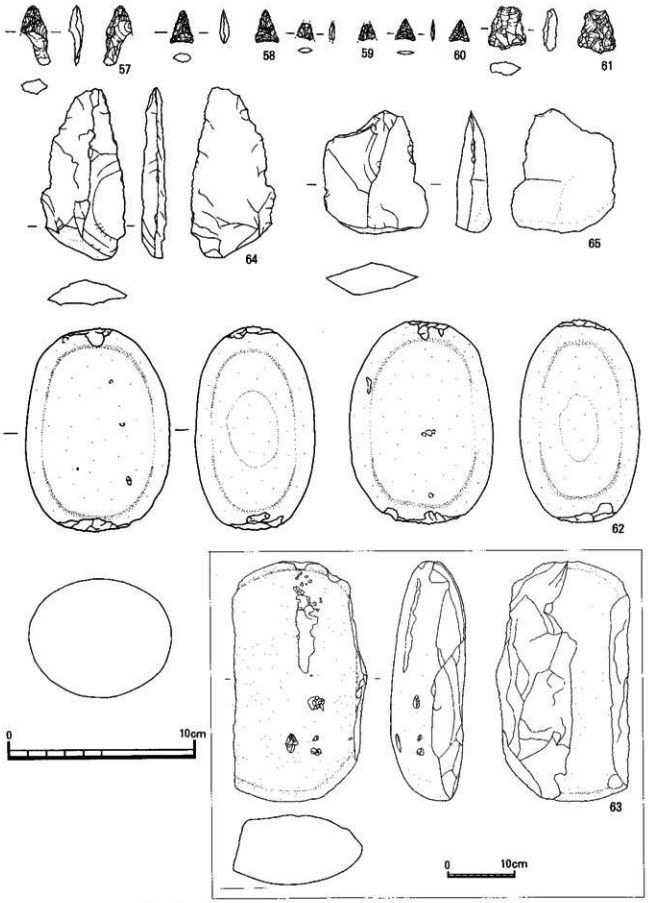
使用痕ある剥片

64、65ともに流紋岩製で両側縁に使用痕が見られる。

他に、尾鈴山酸性岩類の磨石が１点出土している。また、調査区の南側では最大33㎜、最小９㎜の黒曜石の剥片、チップが52点出土している。

第４表　小原山第１遺跡出土石器観察表

No.	器　種	石　材	最大長(㎜)	最大幅(㎜)	最大厚(㎜)	重量(g)	備　考	取上No.
57	石　鏃	チャート	26.5	14.0	6.85	2.30	片脚部欠損	165
58	石　鏃	黒曜石	17.0	12.5	4.40	0.59		167
59	石　鏃	黒曜石	7.5	8.0	2.65	0.21	先端部、基部欠損	175
60	石　鏃	黒曜石	11.0	10.5	1.45	0.13		281
61	石　鏃	黒曜石	22.5	20.0	6.45	3.29	未製品?	180
62	敲　石	尾鈴山酸性岩類	111.0	77.5	64.00	810.00	側面は磨石として使用	187
63	台　石	砂　岩	361.0	198.0	101.50	10750.00		285
64	使用痕ある剥片	流紋岩	92.5	45.5	11.95	44.83		171
65	使用痕ある剥片	流紋岩	65.5	56.0	16.45	63.12		178



第27図　出土石器実測図

第Ⅳ章　小原山第２遺跡の調査

第１節　調査の概要

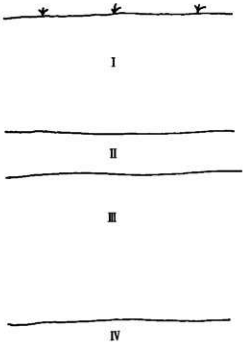
小原山第２遺跡は宮崎市大字瓜生野字小原山5353－１に所在し、台地の南端に位置する。遺跡地周辺は台地の南端部から南に突出する小さな半島状の地形を呈し、東、南、西の三方向は谷に面し、北側には畑地が広がっている。

調査は調査区内の四隅及び中心部とその西側に６本の確認トレンチをあけた。各トレンチの設定は南東隅のものを第１トレンチとし、以下時計回りに第２～４トレンチとした。第１～４トレンチのサイズは４ｍ×２ｍである。また、調査区の中心部のものを第５トレンチ、その西側のものを第６トレンチとした。第５トレンチは３ｍ×２ｍ、第６トレンチは２ｍ×２ｍである。

調査の結果、第２、３トレンチと第５トレンチの西側にのみアカホヤが確認された。また、第１トレンチにおいては現地表面下20㎝ほどで包含層下の硬質で黒色のブロック状の土にあたっており、これらのことより、旧地形は南東側が高く、西側にむかって急傾斜をなし、北側に緩やかに傾斜していたと推測できる。

遺物は第１、３、５トレンチより、土器が出土し、第４トレンチより若干、礫がまとまって検出された。

第２節　層　序



第Ⅰ層－褐色土層
　　耕作土。
第Ⅱ層－橙褐色土層
　　二次堆積アカホヤ。
第Ⅲ層－明褐色土層
　　遺物包含層。
第Ⅳ層－黒色土層
　　硬質でブロック状である。

第28図　小原山第２遺跡標準土層図

第29図　出土土器実測図

明確な遺構の検出は見られなかったが、第４トレンチにおいて礫が散石状に検出された。遺物は縄文土器片が６点、剥片が３点出土した。

１は口縁部で端部は外反し、口縁直下に横位の貝殻腹縁刺突線文を巡らす。内面調整はナデ、胎土に0.5～1.0㎜のガラス質の砂粒を少量含む。色調は外面がにぶい黄褐色、内面が淡褐色を呈し、焼成は良好である。

２、３は胴部で、２は外面に斜位の貝殻条痕文、３は斜位の条痕施文後、部分的に横位の条痕を施している。共に内面調整はナデ、胎土に1.0～1.5㎜のガラス質の砂粒を少量含む。色調は外面が茶褐色、内面が淡褐色を呈し、焼成は良好である。いずれも縄文時代早期に属する貝殻文円筒土器と思われる。

第Ⅴ章　金剛寺原第２遺跡の調査

第１節　調査の概要

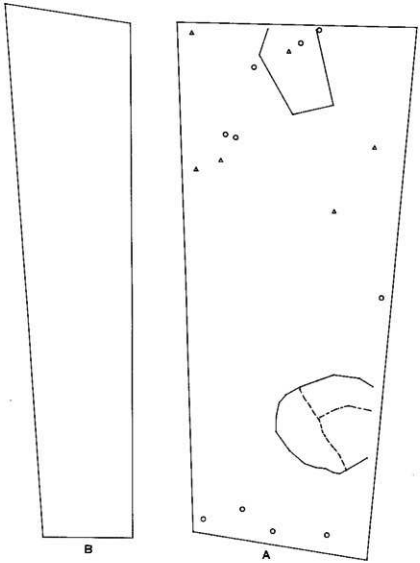
金剛寺原第２遺跡は宮崎市大字大瀬町字中尾5649－30外に所在し、台地の西端に立地している。本遺跡は平成元年、農免道路敷設工事により、発掘調査された金剛寺原第２遺跡の南側に隣接し、今回はその２次調査として取り扱う。

遺跡の北側及び東側は農免道路建設により、削り取られ崖面となっている。また、西側も急傾斜をなし、平松地区の集落をのせる一段下がった台地に続き、南側は畑地となっている。

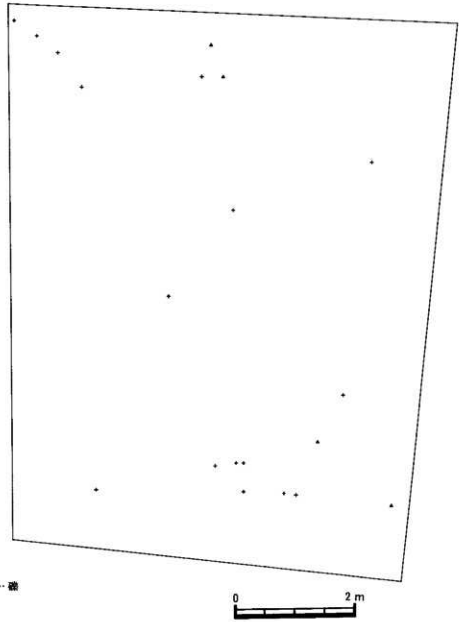
調査区は中央部に南北方向のベルトを残し東西に区切り、西側をＡ区、東側をＢ区とした。調査は平成６年６月21日から７月18日まで実施し、調査面積は182㎡であった。

調査はまず、重機による表土の除去作業より開始した。Ａ、Ｂ区とも遺構確認の為、掘削はアカホヤ上面までとした。Ｂ区では耕作による攪乱が著しく、縄文時代以降の包含層はすでに削平されている状態であった。その後、人力により掘り下げを行ったが、早期の土器が２点山土したに留まった。Ａ区ではアカホヤ面での遺構検出作業を行ったが、遺構の検出には到らなかった。第１面調査終了後、Ａ区で再度、重機によりアカホヤを除去したのち、掘り下げを行った。その結果、遺構の検出は見なかったが、調査区南側に礫がややかたまって検出され、遺物としては縄文時代早期の土器、石器類が出土した。その間、Ｂ区においては調査区の北端に３ｍ×１ｍ、南端に４ｍ×１ｍのトレンチを深さ約250㎝まで掘り下げて、土層の堆積状態を調べた。

その後、Ａ区では旧石器時代文化層の調査の為、８ｍ×１ｍ（Ａ－１トレンチ）、８ｍ×1.5ｍ（Ａ－２トレンチ、Ａ－３トレンチ）の３本のトレンチを設定し、掘り下げた。調査の結果、第３トレンチより使用痕ある剥片が出土した為、Ａ－３トレンチを拡大して、８ｍ×７ｍの範囲を更に掘り下げた。拡大した面では自然礫が点在する状況が認められ、ナイフ形石器、敲石、使用痕ある剥片が各１点ずつ出土した。



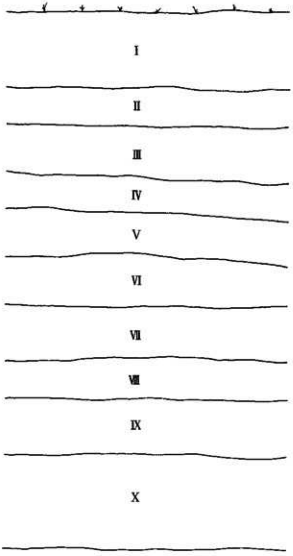
第30図　金剛寺原第２遺跡Ａ・Ｂ区出土状況図



第31図　金剛寺原第２遺跡Ａ区出土状況図

第2節　層序

西側南－北セクションをもとに層位図を作成している。基本層序は以下に示す通りである。



第Ⅰ層－明褐色土層。
耕作土。
第Ⅱ層－明黄褐色土層。
アカホヤ層。
第Ⅲ層－黒色土層。
第Ⅳ層－茶褐色土層。
縄文時代包含層。
第Ⅴ層－黒褐色土層。
第Ⅵ層－暗褐色土層。
第Ⅶ層－黒褐色土層。
第Ⅷ層－黄褐色土層。
旧石器時代包含層。
第Ⅸ層－黒褐色土層。
第Ⅹ層－明黄褐色土層。

第32図　金剛寺原第2遺跡標準土層図

第3節　遺構と遺物

遺構は検出されなかったが、A区第Ⅷ層より旧石器時代の遺物が5点、第Ⅳ層より縄文土器片15点、石器4点、B区より縄文土器片が2点出土した。

1．旧石器時代の遺物（第33図）

6、7は使用痕ある剥片で、石材はともに流紋岩である。8は二側縁加工のナイフ形石器で、石材は頁岩である。9は砂岩製の敲石で両端に敲打痕がみられる。また表面は凹んでおり、先端部は使用により破損している。

2．縄文時代の遺物

A．土器（第34図）

1は全面に横位の貝殻条痕文を施した後、部分的にナデて条痕を消し、条痕部分と無文部で横縞状の文様となっている。口縁部は内湾し、器壁は厚い。内面調整はナデ、色調は内外面とも淡褐色を呈する。胎土に1～2㎜のガラス質黒色粒子、砂粒を含み、焼成は良好である。

2、3は同一個体と思われ、縦位に撚糸文を施している。3は縦位の撚糸文施文後、3本の沈線を横位に巡らしている。共に内面調整はナデで色調は外面が淡褐色、内面が灰褐色を呈する。胎土に1～1.5㎜の砂粒を含み、焼成は良好である。

4は胴部で貝殻腹縁刺突文を縦位、斜位に施している。内面調整はナデ、色調は内外面とも灰褐色を呈する。胎土に2～3㎜のガラス質の砂粒及び金雲母を含み、焼成は良い。

5は断面がカマボコ状の貼り付け突帯を有し、突帯上に刻目をいれる。内面調整はナデ、色調は外面が黒褐色、内面が茶褐色を呈する。胎土に1～2㎜の砂粒を含み、焼成は良好である。

1は条痕文円筒土器、2～3は塞ノ神式土器、4は吉田式土器にそれぞれ比定される。

B．石器（第33図）

石鏃

2点出土している。2点とも姫島産黒曜石製の凹基式の石鏃である。

10は二等辺三角形状を呈し、基部を浅くV字状に抉り、脚部を作り出している。

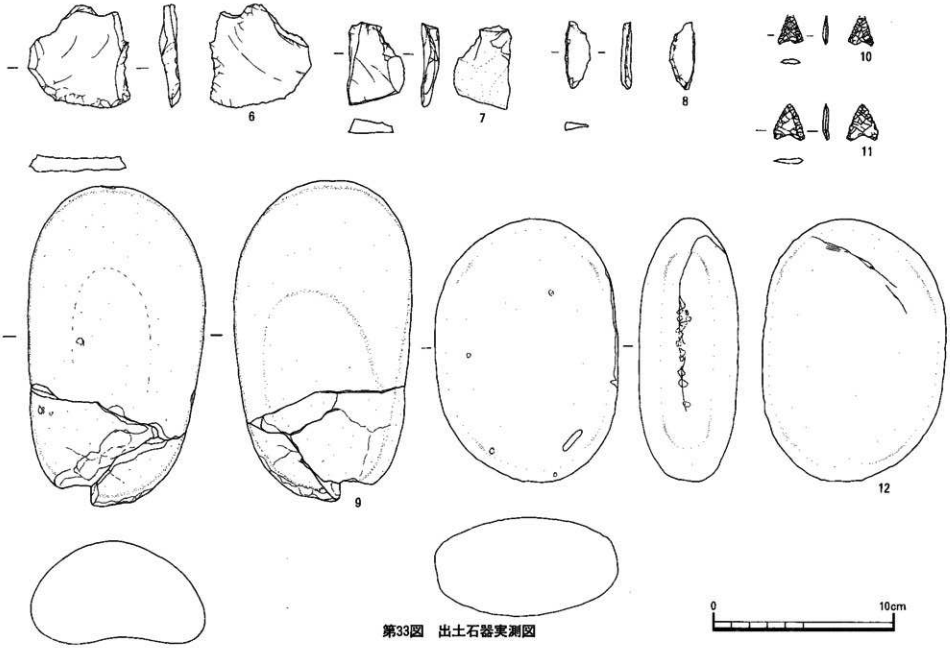
11は正三角形状を呈し、基部をV字状に抉り、脚部を作り出している。

磨石

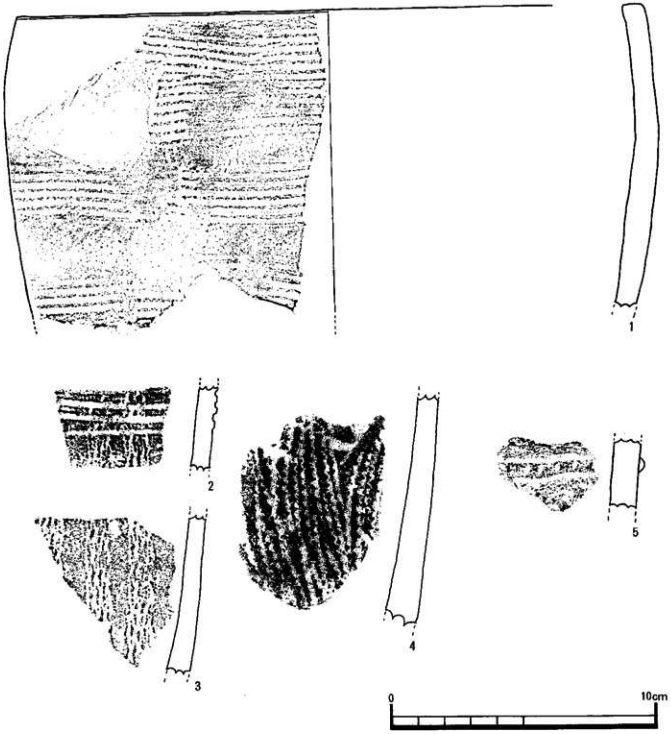
2点出土している。12は形状は楕円形を呈し、両面使用の磨石である。縁辺部には敲打痕がみられ、敲石としても使用されている。石材は尾鈴山酸性岩類で火をうけ、赤変している。なお、もう1点の磨石は砂岩製である。

第5表　金剛寺原第2遺跡出土石器観察表

№　　器　種　　石　材　　最大長(㎜)　　最大幅(㎜)　　最大厚(㎜)　　重量(g)　　備　考　　取上№
6　使用痕ある剥片　流紋岩　55.5　54.5　10.40　29.64　　A－21
7　使用痕ある剥片　流紋岩　45.5　30.5　8.20　11.07　　A－23
8　ナイフ形石器　頁岩　37.0　14.0　6.10　2.65　　A－24
9　敲石　砂岩　175.5　99.0　57.00　1242.00　　A－26 27
10　石鏃　黒曜石　19.5　12.5　2.25　0.41　姫島産黒曜石、先端部欠損　A－5
11　石鏃　黒曜石　17.0　16.5　2.55　0.71　姫島産黒曜石　A－6
12　磨石　尾鈴山酸性岩類　145.0　102.0　53.50　1188.00　側面は敲石として使用　A－7



第33図　出土石器実測図



第34図　出土土器実測図

第VI章　阿部ノ木遺跡の調査

第1節　調査の概要

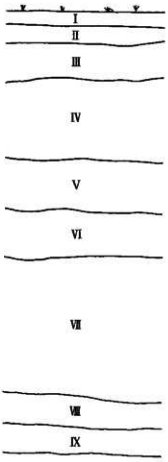
阿部ノ木遺跡は宮崎市池内町字阿部ノ木2247－1外に所在し、台地の東端に位置する。遺跡の東側は谷に面し、周辺は畑地及び杉林となっている。調査は送電線路建設の為の架線工事用地（ドラム場）掘削工事による事前発掘調査であったため、調査区域は制約されたものとなった。

調査は東西方向の10m×1mのトレンチ2本によるもので、調査区は東側の周辺より1段高い箇所をAトレンチ、西側をBトレンチとした。

調査の結果、大変狭い範囲の調査であったが、A区の第V層より角錐状石器、ナイフ形石器、使用痕ある剥片が、第IV層より縄文土器片が出土した。またB区では第V層より細石刃、加工痕のある剥片、剥片が、第IV層より縄文土器片、石斧が出土した。

第2節　層序

Bトレンチ西壁セクションをもとに層位図を作成している。基本層序は以下に示す通りである。



第35図　阿部ノ木遺跡標準土層図

第I層－褐色土層
耕作土。

第II層－明黄褐色土層
二次堆積アカホヤ。

第III層－黒色土層
やや粘り気をもつ。

第IV層－茶褐色土層
縄文時代包含層。

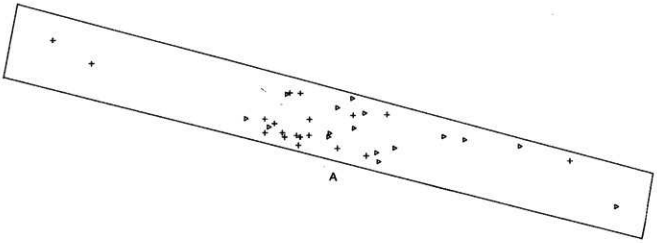
第V層－明褐色土層
旧石器時代包含層。

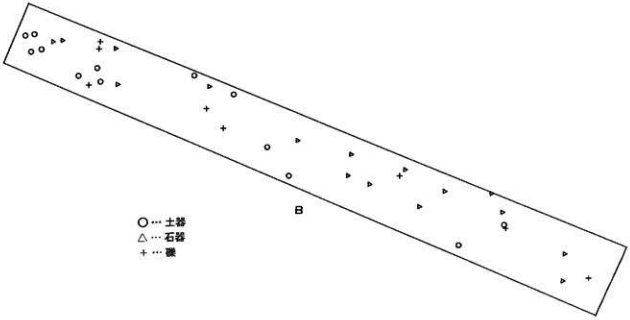
第VI層－黄褐色土層
ローム質である。

第VII層－明黄褐色土層
ローム質である。

第VIII層－黄橙色土層
ローム質である。

第IX層－黄褐色土層
粘性が強い。





第36図　阿部ノ木遺跡出土状況図

第3節　遺構と遺物

調査区域が極めて小範囲であった為、遺構の検出には至らなかった。遺物は旧石器、縄文時代の土器、石器類、土師器片が出土した。

1．旧石器時代の遺物（第37図）

角錐状石器

3点出土している。5、8は2面加工、6は3面加工のものである。

5は縦長剥片を素材とし、両側縁に稜上及び裏面より加工を施している。流紋岩製。

6は縦長剥片を素材とし、両側縁に稜上及び裏面より加工を施し、裏面は基部から左側縁にかけて加工を施している。流紋岩製。

8は縦長剥片を素材とし、両側縁に連続した加工を施している。また裏面は基部に大きな加工が施してある。流紋岩製。

ナイフ形石器

7は縦長剥片を素材とした二側縁加工のナイフ形石器である。流紋岩製。

細石刃

9は黒曜石製の細石刃で、端部は欠損している。現存長10㎜を測る。

剥　片

10は縦長剥片で若干加工痕がみられる。角錐状石器の未製品と思われる。11、12は使用痕ある剥片で、13～15は剥片である。石材はいずれも流紋岩である。

以上の他にA区より砂岩製の敲石1点、最大45㎜から最小4.5㎜の流紋岩製の剥片、チップが33点出土した。

2．縄文時代の遺物

A．土器（第38図）

A区より7点、B区より44点出土している。

1は口縁部から胴部にかけて横位の貝殻条痕文を施文する円筒土器である。内面調整は丁寧なナデ、色調は外面が茶褐色、内面は赤褐色を呈する。胎土に0.5㎜大の砂粒を含み、焼成は良好である。

2は口縁部に貝殻による刺突文を施している。内面調整はナデ、色調は外面が明褐色、内面

は暗褐色を呈する。胎土に1～1.5mmの砂粒を含み、焼成は良い。

3は斜位の貝殻条痕文をもつ胴部である。内面調整は丁寧なナデ、色調は内外面ともに赤褐色を呈する。胎土に1～1.5mmの砂粒を含み、焼成は良好である。

4も斜位の貝殻条痕文をもつ胴部で、内面調整はナデ、色調は外面が赤褐色、内面が茶褐色を呈する。胎土に1～1.5mm砂粒を含み、焼成は良い。

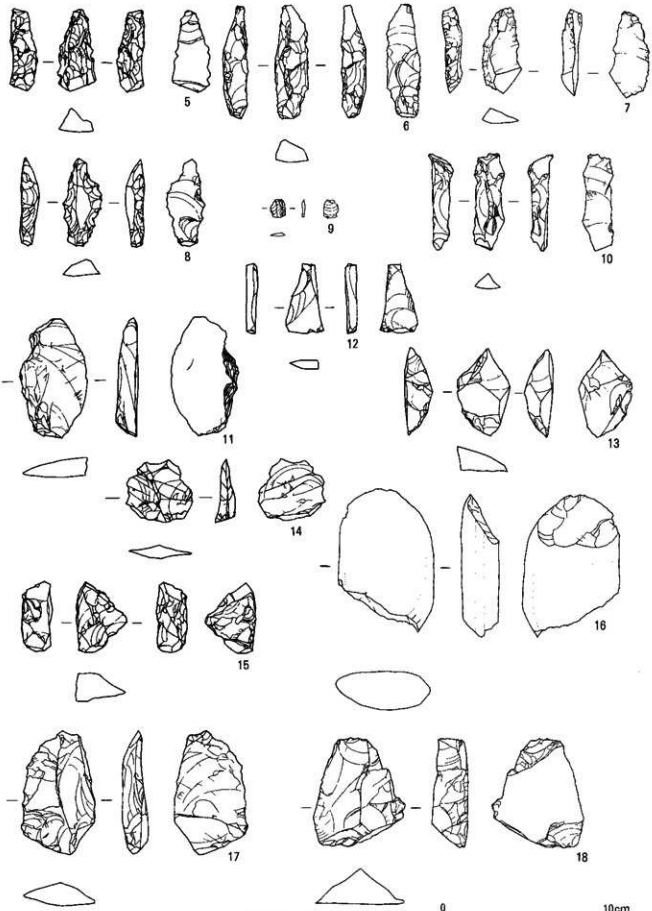
1はA区、2～4はB区より出土した。いずれも貝殻文円筒土器である。

B．石器（第37図）

16は磨製石斧である。断面は扁平な楕円形で、両端部は破損している。石材は頁岩である。17は使用痕ある剥片で、石材は安山岩である。左側縁に使用痕がみられる。18は流紋岩製の剥片である。他に砂岩製の敲石、石皿片が1点ずつ出土している。

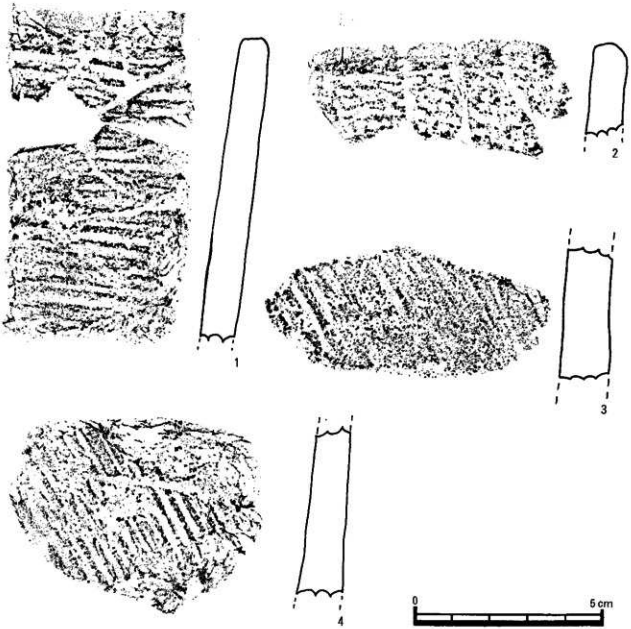
第6表　阿部ノ木遺跡出土石器観察表

No.	器種	石材	最大長（mm）	最大幅（mm）	最大厚（mm）	重量（g）	備考	取上No.
5	角錐状石器	流紋岩	46.5	21.5	13.55	12.02		A－21
6	角錐状石器	流紋岩	62.5	19.0	13.30	17.13		A－25
7	ナイフ形石器	流紋岩	48.5	22.5	8.30	8.42		A－排土内
8	角錐状石器	流紋岩	50.0	22.0	9.90	8.56		A－22
9	細石刃	黒曜石	10.0	8.0	1.55	0.16	端部欠損	B－25
10	加工痕のある剥片	流紋岩	55.0	17.0	11.25	8.57	角錐状石器未製品か	B－32
11	使用痕ある剥片	流紋岩	68.0	38.0	11.50	29.41		A－24
12	使用痕ある剥片	流紋岩	39.5	21.0	5.00	4.80		A－33
13	剥片	流紋岩	50.0	30.0	14.00	17.16		A－23
14	剥片	流紋岩	35.0	37.5	9.70	7.61		A－30
15	剥片	流紋岩	40.0	28.5	15.40	16.94		B－31
16	石斧	頁岩	73.5	54.0	21.00	127.00	磨製石斧	B－10
17	使用痕ある剥片	安山岩	70.5	42.0	12.95	34.66		B－2
18	剥片	流紋岩	61.5	51.5	19.85	50.85		B－14



第37図　出土石器実測図

0　10cm



第38図　出土土器実測図

第Ⅶ章　ま　と　め

［旧石器時代］

旧石器時代の遺物は金剛寺原第２遺跡、阿部ノ木遺跡より出土している。

平成元年の調査で旧石器が出土した金剛寺原第２遺跡では、今回その隣接地での発掘調査であったがナイフ形石器が１点、使用痕ある剥片が２点、敲石が１点出土したにとどまった。遺物の出土量が少なかったのは、前回の調査地が台地の縁辺部であったのに対して、今回は台地の縁辺部から、やや内陸寄りであったという立地上の違いが関係しているのかもしれない。

阿部ノ木遺跡Ａトレンチからは角錐状石器、ナイフ形石器、使用痕ある剥片が出土した。他に焼石、流紋岩製の剥片、チップが比較的集中して検出された状況から、調査範囲が狭いため断定はできないが、ブロックの形成が想定される。

阿部ノ木遺跡における石器の器種別組成は次のようになっている。

角錐状石器	ナイフ形石器	使用痕ある剥片	剥　片	細石刃
3＋(1)	1	2	38	1

石器の出土点数が少ない為に比較資料としては十分とは言えないが、本遺跡の特徴として角錐状石器の数的多さが挙げられる。

角錐状石器は同じ台地上に立地する、金剛寺原第２遺跡（第１次調査）から１点、垂水第１遺跡から15点出土しており、それぞれの遺跡出土の剥片石器のなかで角錐状石器の占める割合は金剛寺原第２遺跡で1.4%、垂水第１遺跡で4.0%となっている。また、使用石材が垂水第１遺跡出土の１点が砂岩製である以外はすべて流紋岩製であることも特徴のひとつとして挙げられる。

角錐状石器の出土は各々の遺跡の石器群の時期的な対比、文化的関連を解明するうえで重要な意味をもつものと思われる。本遺跡ではＡＴ層を確認することはできなかったが、角錐状石器が伴うことから、時期的にはＡＴ層上位の旧石器時代後期のナイフ形石器文化の所産と考えられる。

今回の発掘調査によって、垂水台地が旧石器時代の遺跡群としてのまとまりをもつ可能性が極めて高くなった。今後はこの台地をテリトリーとした単位集団の究明、また、その集団のつくりあげた地域社会様相の解明など課題は多い。今後の研究に期待したい。

［縄文時代］

縄文時代の遺構として、集石遺構が伊屋ヶ谷遺跡より５基、小原山第１遺跡より１基検出された。集石は円礫、破損礫により構成され、一部の石は熱をうけ、赤変している。また、明確な掘り込みを伴う集石は伊屋ヶ谷遺跡Ｂ－１号集石のみであったが、伊屋ヶ谷Ａ－１、２号集石は礫の基底部のラインが薄いレンズ状となり、掘り込みが存在した可能性が高い。

伊屋ヶ谷遺跡Ａ区においては集石遺構が調査区北西側に３基が並んだ状態で検出された。こ

の地は平坦面の縁辺部にあたり、これより南側は緩い傾斜面となる。集石遺構の立地条件を考えるうえでたいへん興味深い。また、遺跡内全体に散在した礫群と集石遺構との関連性については、今回の調査で明らかにすることはできなかった。今後の検討課題である。

土器については各遺跡より出土し、そのほとんどは縄文時代早期の年代が与えられる。上器は混在した状態で出土し、明確な前後関係はとらえられなかった。

出土土器は吉田式、前平式といった貝殻文円筒土器、貝殻条痕文円筒上器が主体となり、吉田式系の土器は多くは胴部に貝殻腹縁刺突文を施す、知覧式に相当する。また、押型文土器はわずかしか認められない。

下記の表は出土土器型式別における全体の比率を表したものである。ここでは比較的土器がまとまって出土した伊屋ヶ谷遺跡、小原山第１遺跡の型式の判明した分のみ、分類して表にあげた。資料総数は伊屋ヶ谷遺跡167点、小原山第１遺跡66点である。

	前平式土器	吉田式土器	条痕文円筒土器	押型文土器
伊屋ヶ谷遺跡	34	93	14	16
	20.4%	55.7%	8.4%	9.6%
小原山第１遺跡	19	39	5	1
	28.8%	59.1%	7.6%	1.5%

	塞ノ神式土器	平栫式土器	手向山式土器	轟式土器
伊屋ヶ谷遺跡	5	4	1	—
	3.0%	2.4%	0.6%	—
小原山第１遺跡	—	—	—	2
	—	—	—	3.0%

両遺跡とも似通った傾向を示すが、小原山第１遺跡では塞ノ神式、平栫式、手向山式土器の出土が見られず、また吉田式土器のなかに角筒土器、貝殻押引文をもつものを含まないという特色をもっている。

伊屋ヶ谷遺跡では吉田式土器のバリエーションが豊富で角筒土器もみられる。県内で類似した例として、田野町札ノ元遺跡が挙げられる。また札ノ元遺跡とは押型文土器の出土数が少ない点でも共通している。

垂水台地周辺の縄文時代早期の遺跡として柏田貝塚、跡江貝塚が挙げられる。柏田貝塚は垂水台地から延びる丘陵南端に位置し、山上土器のほとんどは、貝殻文系の塞ノ神式土器である。対岸に位置する跡江貝塚からは貝殻文系、撚糸文系の塞ノ神式土器、押型文土器、手向山式土器、平栫式土器、吉田式土器、貝殻文系円筒土器、轟式土器などバラエティーに富んだ土器が出土している。

これらの遺跡と垂水台地の遺跡群とは遺跡の立地、主たる生業の面で相違が見られ、山土土器は垂水台地の遺跡群のものが古い様相を示す。

縄文時代の製品としての石器は土器の出土量に比べ、少ない。石器の器種は石鏃と磨石、敲石といった、狩猟具、植物性食糧調理具の出土の割合が高く、垂水台地に居住した縄文人の生活は狩猟、採集に主眼をおいたものであったと推測される。

今回調査した垂水台地上の5遺跡からは住居址は検出されなかったが、伊屋ヶ谷遺跡では集石遺構、多量の土器、石器類が検出され、調査区内一面に礫の堆積が見られた。このことから、当遺跡が縄文時代早期の一時期、居住域であったことが推測される。また調査区外に生活面の中心部が残存する可能性も考えられる。

小原山第1遺跡は調査区の大部分が削平を受けており、遺跡の全容は不明であるが、小範囲内に比較的まとまった量の土器が出土し、集石遺構も1基検出された。また、石鏃や石鏃製作に伴うと見られる黒曜石製の剥片が多量に出土したことから、居住域もしくはキャンプサイト的な性格が考えられる。

小原山第2、金剛寺原第2、阿部ノ木遺跡は土器、石器の出土量も少なく、遺構も検出されなかったが、周辺に居住域があるものと考えられる。

［古墳時代］

古墳時代の遺構として、伊屋ヶ谷遺跡B区より方形プランの竪穴式住居が1軒検出され、それに伴う遺物として土師器の甕、高坏、椀が出土した。山土土器の特徴から、古墳時代後期のものと考えられる。

従来、垂水台地の古墳時代の様相はまったく不明であったが、今回の調査により、その一端を明らかにすることができた。現時点で付近の平野部に古墳時代の集落遺跡が確認されておらず、当地域の古墳時代の集落は高位の台地、段丘上に立地する可能性が高い。

今後の課題として、付近に散在する池内横穴群、上北方横穴群、瓜生野横穴群との関連が挙げられる。

【参考文献】

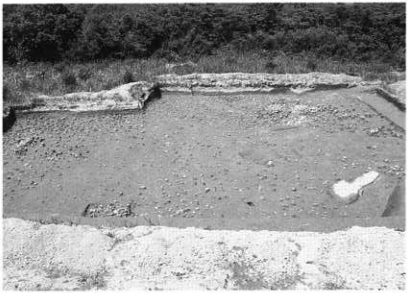
新東晃一「南九州の円筒土器と角筒土器」『鎌木義昌先生古稀記念論集　考古学と関連科学』鎌木義昌先生古稀記念論集刊行会　1988

岩永哲夫「九州東南部における縄文早期遺跡の概観－山土土器を中心にして－」『宮崎県総合博物館研究紀要13』宮崎県総合博物館　1988

「札ノ元遺跡」『田野町文化財調査報告書第3集』田野町教育委員会　1986

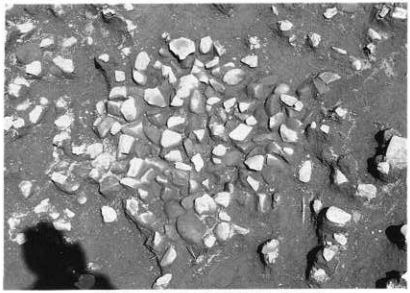
『金剛寺原第1遺跡・金剛寺原第2遺跡』宮崎市教育委員会　1990

『垂水第1遺跡』宮崎市教育委員会　1994



図版１　伊屋ヶ谷遺跡Ａ区全景

図版２　伊屋ヶ谷遺跡Ｂ区全景



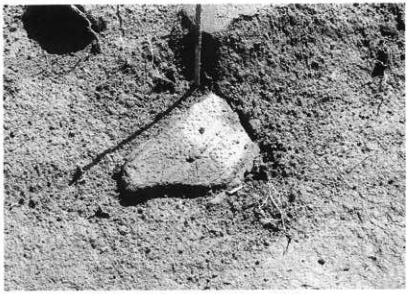
図版３　伊屋ヶ谷遺跡Ａ区１号集石

図版４　伊屋ヶ谷遺跡Ａ区２号集石

図版5　伊屋ヶ谷遺跡A区3号集石

図版6　伊屋ヶ谷遺跡B区1号集石

図版7　伊屋ヶ谷遺跡B区2号集石

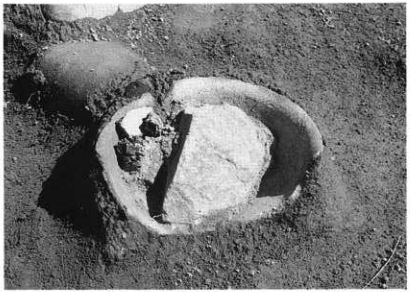


図版8　伊屋ヶ谷遺跡遺物出土状況

図版９　伊屋ヶ谷遺跡遺物出土状況

図版10　伊屋ヶ谷遺跡遺物出土状況

図版11　伊屋ヶ谷遺跡住居址



図版12　伊屋ケ谷遺跡住居址遺物出土状況